

平成21年度

教育委員会事務の点検・評価に関する報告書

(平成20年度対象)

平成22年1月8日

岡山県教育委員会

目 次

[はじめに]	-----	1
I 平成20年度岡山県教育委員会の活動状況	-----	2
1 教育委員会会議の開催状況	-----	2
2 施策・事業等に関する審議内容	-----	3
3 委員協議会の開催状況	-----	8
4 意見交換会・懇談会等	-----	9
5 「岡山県教育行政重点施策」の策定	-----	10
II 平成20年度個別の施策・事業の実施状況	-----	11
1 生涯学習の振興	-----	12
2 家庭・地域社会の教育力の充実	-----	20
3 学校教育の充実	-----	29
4 伝統文化の振興	-----	69
III 評価	-----	76
1 岡山県教育委員会の活動に対する評価	-----	76
2 個別の施策・事業に対する評価	-----	76
(1) 生涯学習の振興	-----	76
(2) 家庭・地域社会の教育力の充実	-----	76
(3) 学校教育の充実	-----	77
(4) 伝統文化の振興	-----	78
IV 点検・評価に関する有識者からの意見及び教育委員会の考え方	-----	79
意見を頂いた学識経験者	-----	82
岡山県教育委員会委員	-----	82

(参考資料)

- 1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋
※平成20年4月1日施行 第27条
- 2 条例、規則等の制定・改廃

本文中の **新** は新規事業を、**国** は文部科学省の補助事業等を表します。

[はじめに]

この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条の規定に基づき、岡山県教育委員会の権限に属する事務の平成20年度における管理及び執行の状況について、点検及び評価を行った結果を取りまとめ、岡山県議会に提出するとともに、一般に公表するものであります。

今日、社会経済構造が大きく変化するとともに、教育をめぐる状況も改革・変動の時期にあります。また、教育行政に対しては、その中立性や継続性を確保するとともに、住民の様々な考えや多様な価値観などを尊重しながら、豊かな発想を持って、創意工夫を図りながら施策を展開することが求められております。

そうした中、教育委員会は、教育の責任ある担い手としての当事者意識をしっかりと持ちながら、地方から教育改革を進めるとの強い決意を持って臨んでいかなければなりません。

岡山県教育委員会では、教育行政の基本方針等の重要案件について、委員協議会での事前協議や教育委員会会議での複数回の協議を行い、さらには、必要に応じて現地調査を実施するなど、議論を尽くして決定することとしております。

そして、決定した基本方針等に基づき、教育長とその統括する事務局において、具体的な事業や日々の教育事務を執行することにより、着実かつ効果的な教育行政の推進に努めているところであります。

岡山県教育委員会としましては、今後とも、施策や事務事業の点検及び評価を通じて、その効果の検証と改善を絶えず図りながら、教育行政を進めてまいりたいと考えておりますので、引き続き皆様の御理解と御協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

平成22年 1 月

岡山県教育委員会

I 平成20年度岡山県教育委員会の活動状況

人口減少社会の到来や少子・高齢化の急激な進展、社会経済構造の変化など、時代が大きな変革期を迎えている中、これからの時代を担う人づくりのために教育の果たすべき役割は非常に大きなものがあります。

特に、教育基本法の改正に始まり、教育3法の改正、学習指導要領の改訂など、教育をめぐる状況は今まさに大きな改革・変動の時期にあり、教育の責任ある担い手として当事者意識をしっかりと持ちながら、地方から教育改革を進めるとの強い決意を持って臨んでいかなければなりません。

岡山県教育委員会としては、子どもたちの明るい笑顔と豊かな人生のため、また、活力ある地域社会づくりのために、本県独自の教育施策も積極的に実施しながら、家庭・地域社会とも連携を図りつつ、創意工夫を生かした教育行政を推進してまいりたいと考えております。

そうしたことから、岡山県教育委員会では、小・中・高等学校、特別支援教育や教育機関、各地域の教育活動の状況を把握するため現地を訪問し、関係者の生の声を把握し、その上で、岡山県の実情に応じた教育施策の決定に努めてきました。

また、事務局からの提案に対しても、各委員がそれぞれの専門性、識見に基づき、様々な角度から真剣に議論し、事業によっては、委員協議会の開催や複数回での審議を行ってきました。

1 教育委員会会議の開催状況

岡山県教育委員会は、平成20年度は、年間17回の教育委員会会議を開催し、議案35件、協議事項26件、報告事項51件などについて審議等を行いました。

(資料1) 教育委員会会議の開催状況

	開催月日	議案	協議事項	報告事項	資料提供	その他	計
1	平成20年4月4日(金)	0	2	2	2	1	7
2	平成20年4月18日(金)	0	1	1	2	0	4
3	平成20年5月9日(金)	0	0	3	1	0	4
4	平成20年5月23日(金)	2	1	2	3	0	8
5	平成20年6月6日(金)	1	0	6	3	0	10
6	平成20年7月4日(金)	5	2	3	5	0	15
7	平成20年8月22日(金)	5	5	4	9	0	23
8	平成20年9月5日(金)	0	2	4	3	0	9
9	平成20年10月10日(金)	3	0	4	8	0	15
10	平成20年10月31日(金)	1	3	1	5	0	10
11	平成20年11月21日(金)	4	2	3	3	0	12
12	平成20年12月19日(金)	3	1	3	5	0	12
13	平成21年1月9日(金)	0	2	2	0	1	5
14	平成21年1月23日(金)	2	2	2	4	0	10
15	平成21年2月6日(金)	1	1	1	2	1	6
16	平成21年2月20日(金)	1	2	6	2	0	11
17	平成21年3月23日(月)	7	0	4	3	0	14
	計	35	26	51	60	3	175

2 施策・事業等に関する審議内容

教育委員会会議において、「平成20年度岡山県教育行政基本方針」に基づき、基本的な方向性を決定するとともに、個別の施策・事業等については、適切な審議に努め、広範囲にわたる教育行政施策を着実に推進しました。

(資料2)「平成20年度岡山県教育行政基本方針」

今日の変化の激しい社会に適切に対応しながら、生涯にわたって心豊かにたくましく生きていく力を持つとともに、豊かで活力ある社会を築き、支えていく意欲と実践力を備えた新時代を担う人間の育成が重要です。

岡山県教育委員会では、「おかやま教育ビジョン」や「岡山県人権教育推進プラン」等を踏まえ、人間尊重の精神を基調とし、「生涯学習社会おかやま」の実現を目指して、生涯学習、家庭・地域社会の教育、学校教育、伝統文化の各分野にわたる教育行政を長期的な展望に立ちながら「新おかやま夢づくりプラン」等に基づいて総合的に推進します。

特に、「確かな学力」と「豊かな心」の育成を重要な柱と捉え、子ども一人ひとりを大切にしたいきめ細かな指導により、基礎・基本の確実な定着や自ら学び考える力の育成に努めるとともに、学校外の多彩な人材も積極的に活用しながら活性化を図ります。

また、いじめ問題等の解決に向けて重点的に取り組むとともに、学校・家庭・地域社会が一体となり、様々な体験などの活動機会の充実や、子どもの安全確保など、地域と協働で子どもを心身ともに健やかに育てる気運の醸成を図ります。

さらに、多様化・複雑化している教育課題に適切に対応するため、教職員の一層の資質向上を図ります。

諸施策の推進に当たっては、市町村合併により体制が強化された市町村教育委員会や教育関係団体等との連携を一層緊密にするとともに、適切な役割分担のあり方にも配慮しつつ、広く県民の理解と協力を得て、積極的に推進します。

(資料3) 施策・事業等に関する審議内容

(1) 生涯学習の振興

■生涯学習推進体制の整備・充実

[平成20年7月4日(金)]

- 第6期岡山県生涯学習審議会への諮問について
- ・社会情勢の変化を踏まえた今後の本県における生涯学習の推進について

■生涯学習環境の整備・充実

[平成20年7月4日(金)]

- 岡山県立図書館協議会委員の任命について

[平成20年8月22日(金)]

- 岡山県立図書館の入館者数について
- ・入館者数、貸出冊数について

(2) 家庭・地域社会の教育力の充実

■家庭の教育力の充実

[平成21年1月9日(金)]

- 平成20年度すこやか子育て川柳について

■地域社会の教育力の充実

[平成20年6月6日(金)]

- 岡山県社会教育委員の任命について

■学校・家庭・地域社会の連携強化

[平成21年2月6日(金)]

- ぱっちり！モグモグ“ツーウィーク”について
- ・チャレンジカードを使って、生活リズムを見直す取組

■人権教育の推進

[平成20年7月4日(金)]

- 「インターネットに関する保護者向けリーフレット」について

[平成21年2月20日(金)]

- 人権教育推進状況報告書のまとめについて

[平成21年3月23日(月)]

- 岡山県同和教育基本方針の廃止について

(3) 学校教育の充実

■学力向上の推進

[平成20年4月4日(金)]

- 平成20年度岡山県教科用図書選定審議会委員の任命及び諮問事項について

[平成20年6月6日(金)]

- 教科用図書選定審議会委員の答申について

[平成20年7月4日(金)]

- 県立学校平成21年度使用教科用図書の採択について

[平成20年8月22日(金)]

- 県立学校平成21年度使用教科用図書の採択について

[平成20年9月5日(金)]

- 平成20年度全国学力・学習状況調査結果の概要について
・本県の学力等の状況、特徴、取組等について

[平成21年1月9日(金)]

- 本県における新規高等学校卒業予定者の採用内定取消し状況について

[平成21年2月20日(金)]

- 本県における新規高等学校卒業予定者の就職状況について

[平成21年3月23日(月)]

- 学力向上に向けて作成した指導資料について

■心の教育の推進

[平成20年4月4日(金)]

- 「いじめについて考える週間」について
・実施の趣旨、期間、関連行事、取組について
- 「県下一斉あいさつ運動」の実施について
・実施の趣旨、方法、予定について

[平成20年4月18日(金)]

- 「携帯電話等に関するアンケート調査」結果について
・校内への持ち込み、情報モラル教育、児童生徒の使用状況等について

[平成20年7月4日(金)]

- 教育相談の実施状況について
・教育事務所教育相談状況、県総合教育センター相談状況について
- 「インターネットに関する保護者向けリーフレット」について(再掲)

[平成20年8月22日(金)]

- 児童生徒の問題行動等に関する調査結果(速報)について
・本県の公立学校におけるいじめを認知した学校数、いじめの認知件数、高等学校中途退学者の状況、不登校の状況、公立学校における暴力行為の発生状況について

[平成20年9月5日(金)]

- 平成20年度全国高等学校総合文化祭の成績について

[平成21年2月20日(金)]

- 学校における携帯電話の取扱い等について
・公立小・中・高等学校、他県及び県内市町村教育委員会を対象とした調査結果、指導指針(案)等について
- 「不登校についての意見交換会」の意見概要について

■高等学校教育体制の整備・充実

[平成20年5月23日(金)]

- 再編により整備する新しい高等学校の教育内容等について
・弓削・津山工業高等学校グループ・プロジェクトチームにおける検討状況(中間まとめ)について

[平成20年7月4日(金)]

- 平成21年度岡山県立高等学校入学者選抜実施大要について
・選抜の方針など、主な変更点について
- 平成21年度岡山県立中学校入学者選抜実施大要について

[平成20年 8月22日 (金)]

○県立高等学校再編整備方針について

・弓削・津山工業高等学校について

○落合・久世・勝山・蒜山高等学校グループ・プロジェクトチームにおける検討状況について (第1次まとめ)

[平成20年 9月 5日 (金)]

○平成21年度県立高等学校第1学年生徒募集定員策定方針について

[平成20年10月10日 (金)]

○平成21年度県立高等学校第1学年生徒募集定員の策定について

[平成20年11月21日 (金)]

○県立高等学校再編整備方針について

・蒜山高等学校について

[平成20年12月19日 (金)]

○県立中等教育学校の設置について

[平成21年 3月23日 (月)]

○再編により整備する新しい高等学校の教育内容等について (最終まとめ)

・弓削・津山工業高等学校グループ・プロジェクトチーム

■特別支援教育の推進

[平成20年 5月 9日 (金)]

○平成20年度岡山県立特別支援学校への就学等の状況について

・岡山県立特別支援学校の新規就学児童生徒数、幼児児童生徒数、卒業生の進路状況について

○新設高等特別支援学校について

・新設校の概要、校名募集等について

[平成20年 8月22日 (金)]

○岡山地域新設高等特別支援学校 (仮称) の校名について

[平成20年10月10日 (金)]

○平成21年度岡山県立岡山瀬戸高等支援学校入学者選抜実施要項について

[平成20年12月19日 (金)]

○「通常学級における特別支援教育」リーフレットについて

○発達障害児支援フォーラムの開催について

■学習環境の整備・充実

[平成20年 4月18日 (金)]

○平成21年度岡山県公立学校教員採用候補者選考試験の実施について

[平成20年 6月 6日 (金)]

○小中学校における教材関係予算措置状況 (平成18年度) について

[平成20年 7月 4日 (金)]

○民間人校長選考試験について

[平成20年 8月22日 (金)]

○副校長等の新たな職の設置について

○教員採用試験等に係る調査結果について

[平成20年 8月22日 (金)]

○岡山県の教員採用等の在り方に関する検討委員会について

[平成20年10月10日 (金)]

○平成21年度岡山県公立学校教員採用候補者選考試験について

[平成20年10月31日 (金)]

○平成20年度末校長・教員等人事異動要綱について

○岡山県公立学校長特別選考試験第1次選考について

[平成20年11月21日 (金)]

○公立学校長の人事異動について

[平成20年12月19日（金）]

- 公立学校長の人事異動について
- 岡山県公立学校長特別選考試験第2次選考について
- 岡山県の教員採用等の在り方に関する検討委員会報告書について

[平成21年1月23日（金）]

- 平成20年度岡山県教育員会メンタルヘルス対策委員会審議のまとめについて

[平成21年2月20日（金）]

- 高校生「県産材活用」UD整備事業及び高校生「エコ広場」UD整備事業の完成について
 - ・高校生「県産材活用」UD整備事業（県立井原高等学校、県立岡山南高等学校）、高校生「エコ広場」UD整備事業（県立倉敷天城高等学校、県立矢掛高等学校）の完成について

[平成21年3月23日（月）]

- 平成20年度末教職員の人事異動について

■体育・健康教育の充実

[平成20年5月9日（金）]

- 食育から広げる生活リズム向上プランについて
 - ・家庭向けリーフレットの内容等について

[平成20年5月23日（金）]

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

[平成20年6月6日（金）]

- 運動部活動活性化事業について
 - ・趣旨、事業内容、実施校等について
- 「犯罪ゼロの日」の創設及び「子ども110番の家セーフティーコーン」の設置について

[平成20年9月5日（金）]

- 平成20年度全国高等学校総合体育大会及び全国中学校体育大会の成績について

[平成20年10月10日（金）]

- 学校給食等における事故米穀の混入について
- 「安全・安心まちづくり旬間」中の主要行事について

[平成21年1月23日（金）]

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について
 - ・本県の体力等の状況、特徴、取組等について

[平成21年2月20日（金）]

- 学校給食における地場産物の活用について

■人権教育の推進

（2の再掲）

（4） 伝統文化の振興

■伝統文化の振興

[平成20年7月4日（金）]

- 岡山県立文化財保護審議会委員の任命について
- 岡山県立博物館協議会委員の任命について

[平成20年8月22日（金）]

- 岡山県指定重要文化財の指定等の諮問について

[平成20年10月10日（金）]

- 世界遺産暫定一覧表への追加記載候補の調査・審議結果について
 - 「資産名称：近世岡山の文化・土木遺産群－岡山藩郡代津田永忠の事績－」

[平成21年1月23日（金）]

- 岡山県立博物館協議会委員の任命について

[平成21年2月20日（金）]

- 岡山県指定重要文化財等の指定について

(5) その他（共通事項等）

[平成20年4月4日（金）]

- 教育委員会の活動状況の公開について
 - ・活動状況及び資料、会議の概要のホームページ上の公開について

[平成20年5月23日（金）]

- 民法34条法人の解散について
 - ・財団法人岡山県青年会館の解散について
 - ・財団法人村川工業ライブラリーの解散について

[平成20年6月6日（金）]

- 平成21年度国に対する提案について

[平成20年8月22日（金）]

- 国の教育振興基本計画の概要について

[平成20年9月5日（金）]

- 「岡山県教育委員会六十年の歩み」について

[平成20年10月31日（金）]

- 夢づくり政策評価の結果（案）について

[平成20年11月21日（金）]

- 民法34条法人の解散について
 - ・財団法人下野部部落会の解散について
- 平成21年度重点事業の概要等について

[平成20年12月19日（金）]

- 平成20年岡山県教育委員会10大ニュース

[平成21年1月9日（金）]

- 教育委員会事務の点検・評価について

[平成21年1月23日（金）]

- 平成20年度教育委員会事務の点検・評価に関する報告書（平成19年度対象）について

[平成21年2月20日（金）]

- 岡山市の政令指定都市移行に伴う任命権の移譲等について

（その他の主な審議内容）

- ・岡山県教育関係功労者表彰
- ・争訟に関する事案
- ・教職員の懲戒処分等

3 委員協議会の開催状況

教育委員会会議とは別に、委員協議会を年間11回開催し、専門的な教育行政施策に関する教育委員の理解の深化に努めました。

(資料4) 委員協議会の開催状況

	開催月日	内 容
1	平成20年5月9日(金)	・懲戒処分の方針の一部改正及び公表基準の策定について
2	平成20年6月6日(金)	・副校長等の新たな職の設置について ・民間人校長選考試験の実施について
3	平成20年7月4日(金)	・県立高等学校の再編整備について ・岡山地域新設高等特別支援学校(仮称)の校名について
4	平成20年10月10日(金)	・教育委員会事務の点検・評価について ・教育事務所の在り方について
5	平成20年10月31日(金)	・教育事務所の再編について ・県立高等学校再編整備方針について
6	平成20年11月21日(金)	・県立中等教育学校の設置について ・岡山県の教員採用等の在り方について ・教育委員会事務の点検・評価について
7	平成20年12月19日(金)	・勤務成績不良職員の取扱いについて ・岡山県教育振興基本計画(仮称)について ・倉敷地域新設高等特別支援学校(仮称)について
8	平成21年1月9日(金)	・学力向上と携帯電話の正しい利用に向けた取組について
9	平成21年2月6日(金)	・特別支援教育推進プラン(素案)について
10	平成21年2月20日(金)	・再編により整備する新しい高等学校の教育内容等について ・平成22年度岡山県公立学校教員採用候補者選考試験について ・岡山県特別支援教育推進プラン(案)について ・岡山県同和教育基本方針の廃止について ・岡山県教育振興基本計画(仮称)について
11	平成20年3月23日(月)	・岡山県教育振興基本計画(仮称)について

4 意見交換・懇談会等

各地域の実情に応じた教育の振興を図るため、学校現場や教育施設の視察、市町村教育委員会、小中学校長会等との意見交換・懇談会等を行うなど、直接、県内各地・各層の関係者等の御意見を伺い、教育委員会としての意思決定に資する活動を積極的に進めました。

(資料5) 意見交換・懇談等の実施状況

日 時	活 動 内 容
平成20年4月11日(金)	県退職職員感謝の集い
平成20年4月18日(金)	教育問題懇談会
平成20年5月9日(金)	県立岡山東養護学校視察
平成20年5月27日(火)	国民文化祭実行委員会総会
平成20年7月2日(水)	地域の関係者等との意見交換会
平成20年7月10日(木)	小・中・高等学校教員との意見交換会
平成20年7月17日(木) ～ 7月18日(金)	全国教育委員会連合会総会
平成20年9月19日(金)	臨時都道府県教育委員会教育委員長会議
平成20年9月22日(月)	第63回国民体育大会結団壮行式(大分県)
平成20年9月25日(木)	県立倉敷青陵高等学校100周年記念式典
平成20年9月27日(土)	第63回国民体育大会開会式(大分県)
平成20年10月2日(木)	県立新見高等学校90周年記念式典
平成20年10月7日(火)	県立津山東高等学校60周年記念式典
平成20年10月10日(金)	小中学校長との懇談会
平成20年10月15日(水)	県立岡山東商業高等学校110周年記念式典
平成20年10月17日(金)	全国教育委員会連合会役員会
平成20年10月23日(木) ～ 10月24日(金)	中国五県教育委員全員協議会
平成20年10月30日(木)	新任教育委員研究協議会
平成20年10月31日(金)	岡山県教育関係功労者表彰式
平成20年11月6日(木)	市町村教育委員研修会
平成20年11月21日(金)	公安委員との意見交換会
平成21年1月5日(月)	仕事始めの式
平成21年1月16日(金)	知事との懇談会
平成21年1月19日(月)	全国教育委員会連合会シンポジウム
平成21年1月20日(火)	全国教育委員会連合会総会
平成21年2月6日(金)	市町村教育委員との懇談会
平成21年2月12日(木)	全国都市緑化おかやまフェア実行委員会総会
平成21年3月1日(日) ～ 3月2日(月)	県立学校卒業式出席
平成20年4月15日(火) ～平成21年3月16日(月)	県議会本会議、臨時議会及び常任委員会(文教委員会)への参加 (計58回)

5 「岡山県教育行政重点施策」の策定

教育委員会においては、国の動向や県の教育施策の推進状況、学校現場や市町村等の実情などを踏まえながら、教育行政推進の基本的な方針を協議・決定しました。

また、平成20年度末には、「確かな学力の向上」、「豊かな心の育成」、「特別支援教育の推進」、「社会全体で子どもをはぐくむ環境づくり」、「子どもの安全・安心の推進」、「岡山県教育振興基本計画（仮称）の策定」を柱とする「平成21年度岡山県教育行政重点施策」について2日間にわたり協議・決定しました。

このように、教育委員会は、岡山県の教育の機会均等、教育水準の維持向上及び県民の意向を反映した責任ある教育行政の実現に鋭意取り組んでいます。

（資料6）基本的な方針に関する審議状況

[平成20年8月22日（金）]

- 国の教育振興基本計画の概要について

[平成21年2月20日（金）]

- 平成21年度教育行政重点施策について
 - ・教育振興施策の体系、内容について

[平成21年3月23日（金）]

- 平成21年度教育行政重点施策について
 - ・前回協議で指摘した事項について再協議

（その他の主な審議内容）

- ・当初予算
- ・財政構造改革
- ・教育委員会事務局、学校等の組織、人事
- ・岡山県議会定例会提出予定案件
- ・岡山県教育委員会規則の改正等

（資料7）「平成21年度岡山県教育行政重点施策」のポイント

- ① 確かな学力の向上
 - ・子どもの学習意欲の喚起を促す授業改革
 - ・きめ細かな指導の充実
- ② 豊かな心の育成
 - ・就学前から高等学校段階までの心の教育の充実
 - ・専門家や関係機関等との連携によるいじめ・不登校問題等への対応
- ③ 特別支援教育の推進
 - ・特別支援学校の教育体制の整備
- ④ 社会全体で子どもをはぐくむ環境づくり
 - ・放課後子ども教室、学校支援地域本部事業の推進
- ⑤ 子どもの安全・安心の推進
 - ・学校施設の耐震化
 - ・学校、通学路等の安全確保
- ⑥ 岡山県教育振興基本計画（仮称）の策定

II 平成20年度個別の施策・事業の実施状況

大項目	中項目	小項目	頁	
1 生涯学習の振興 (P12)	(1)生涯学習推進体制の整備・充実	ア 生涯学習審議会	12	
		イ 生涯学習推進本部		
		ウ 「おかやま学びの輪」の充実・発展		
		エ 学習成果の活用		
	(2)生涯学習環境の整備・充実	オ 「第19回全国生涯学習フェスティバル」の成果の継承	13	
		ア 学習機会の充実	15	
2 家庭・地域社会の教育力の充実 (P20)	(1)家庭の教育力の充実	イ 学習の場の整備・充実	16	
		ア 学習・交流機会の充実	20	
	(2)地域社会の教育力の充実	イ 相談・支援体制の充実	21	
		ア 地域の教育力の活性化	22	
	(3)学校・家庭・地域社会の連携強化	イ 社会教育活動の充実	23	
		ア 学社融合の推進	24	
	(4)人権教育の推進	イ 子ども読書活動の推進	25	
		ア 市町村における人権教育の推進	26	
		イ 指導者の養成		
		ウ 「人権の世紀21おかやま」推進事業	27	
	3 学校教育の充実 (P29)	(1)学力向上の推進	エ ふれあい人権劇推進事業	29
			ア 教育内容の充実	
イ きめ細かな指導の推進				
ウ 教職員の指導力の向上				
(2)心の教育の推進		エ 時代の進展に対応した教育の推進	32	
		ア 道徳教育の充実	35	
		イ 体験活動の充実	36	
(3)高等学校教育体制の整備・充実		ウ 学校適応の推進	39	
		ア 入学者選抜制度・方法の改善	42	
		イ 高等学校の魅力づくり	43	
		ウ 県立高等学校の再編整備		
		エ 再編整備実施に伴う通学費貸付事業	44	
(4)特別支援教育の推進		ア 教育体制の整備	45	
		イ 就学指導体制の整備充実		
		ウ 教職員の指導力の向上		
		エ 特別支援教育の推進		
(5)学習環境の整備・充実		オ 障害児に対する正しい理解の推進	47	
		ア 開かれた学校づくりの推進	48	
		イ 教職員の資質向上	49	
		ウ 教職員の確保と適正配置	51	
		エ 健康と福利厚生	52	
		オ 施設・設備等の整備・充実	54	
(6)体育・健康教育の充実		ア 体育・スポーツ活動の充実	58	
		イ 健康教育の充実	62	
(7)人権教育の推進		ア 人権教育の総合的な推進	66	
		イ 研究推進校園の指定		
		ウ 教職員等の研修		
	エ 調査事業・指導資料等整備			
	オ 「人権の世紀21おかやま」推進事業			
	カ 学校・地域社会の連携			
4 伝統文化の振興 (P69)	(1)文化財の保存と活用	ア 文化財の保存	69	
		イ 文化財の活用	72	
		ウ 文化財保護推進体制の整備	75	
		エ 世界文化遺産の登録推進		

1 生涯学習の振興

(1) 生涯学習推進体制の整備・充実

施策の目標

生涯学習推進体制の整備・充実に努めるとともに、第19回全国生涯学習フェスティバルの成果を継承しながら、生涯学習による地域社会づくりを一層推進する。

【教育委員会での主な意見】

[平成20年7月4日(金)]

○第6期岡山県生涯学習審議会への諮問について

- ・県で行財政改革が進む中、従来、行政が担ってきた部分を、地域社会で解決していかざるをえない点を示していく必要がある。

【教育委員会での審議等を踏まえた施策等】

○社会情勢の変化を踏まえた今後の本県における生涯学習の推進について（諮問）

- ・学習活動の支援について
- ・学習活動の環境整備について
- ・その他関連事項

(諮問理由)

・・・また、各種機関、大学、NPO、民間事業者等による地域活動や学習機会の提供も増加してきており、新たな主体と連携・協働して生涯学習推進を図ることも求められている。加えて、県・市町村の財政状況を踏まえ、真に必要な施策を見極める視点にも留意する必要がある。・・・

	H19	H20	増減
おかやま学びの輪※登録団体数	67	123	56

※生涯学習活動や地域社会づくり等を行っている機関、団体、企業等で構成するネットワーク

○ 施策の概要

ア 生涯学習審議会

平成20年7月14日開催の審議会において、知事及び教育委員会からの諮問「社会情勢の変化を踏まえた今後の本県における生涯学習の推進について」を行った。その後、11月28日、平成21年1月27日及び3月18日にも審議会を開催し、答申の提出に向けての協議を行った。

イ 生涯学習推進本部

「第2次岡山県生涯学習推進基本計画」に基づいた取組や岡山県生涯学習審議会への諮問事項について、平成20年8月4日に協議を行った。

ウ 「おかやま学びの輪」の充実・発展

県・市町村の行政機関、学校、社会教育施設、大学等高等教育機関、民間教育事業者及び「第19回全国生涯学習フェスティバル」の出展・参加団体等、生涯学習に係る団体が相互に連携、協力して県民の学習環境の整備を進めるためのネットワーク「おかやま学びの輪」の充実・発展を図った。

エ 学習成果の活用

各種研修会等において、「生涯学習パスポート」の活用を広報するとともに、有効活用について研究した。

オ 「第19回全国生涯学習フェスティバル」の成果の継承

(ア) 新シニアパワーで“ほっと”な地域社会づくり事業

全国生涯学習フェスティバル開催により生まれた、学びを通じた地域社会づくりへの気運の高まりを生かし、地域においてシニア世代等が活躍できる場を創出し、住民自身による家庭・地域社会の教育力の向上を目指した。また、地域が大人も子どもも全ての住民にとって“ほっと”できる居場所となる地域社会づくりを目指し、官民協働で新しい生涯学習プログラムの開発を図った。(10市町村)

(イ) 新「おかやま学びフェスタ2008」の開催

第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」の成果を継承・発展させるため、全県レベルの発表会・交流会として「おかやま学びフェスタ2008」を開催した。

ア) 日 時 平成20年11月9日(日) 9:30~15:30

イ) 場 所 県生涯学習センター

ウ) 参加者数 約3,000名

エ) 実施内容

	プログラム	内 容 等		参加団体数
第1部	オープニングコンサート	「翼をください」ほか おんがく団「温羅」		/
	紙芝居	紙芝居「夢屋」のおっちゃん 中村由利江		
	ポスターセッション	シニアパワーで“ほっと”な地域社会づくり事業の発表		10団体
第2部	チャレンジ体験コーナー	万華鏡づくり、ロボット操縦ほか		25ブース
	ステージ発表	大ステージ	和太鼓演奏ほか	7ステージ
		小ステージ	ピアノ演奏ほか	7ステージ
	子ども読書コーナー	読み聞かせほか		3団体
	学びのコーナー	放送大学の学習紹介ほか		3団体
児童会館コーナー	プラネタリウム、大型紙芝居ほか		/	
活動PRコーナー	ガールスカウトの活動ほか		15団体	



「おかやま学びフェスタ2008」の様子

<協働の成果>

市町村、企業、学校、NPO等民間団体等との協働により、生涯学習活動の取組が促進された。

(ウ) **新**いきいき生涯学習ボランティア活用！事業

生涯学習に取り組んでいる人やこれからボランティアを始めたい人などを対象として、実践的なボランティア養成講座を開催するとともに、受講者のコーディネートを積極的に行い公民館や学校等を活動拠点とする先進的なボランティア活動の推進を図った。

また、そうした活動を交流・発信する集いを通して、ボランティアとの協働による地域社会づくりの推進を図った。

第1回 全体研修 平成20年7月6日(日)

記念講演「生活大国ニッポン～余暇の過ごし方～」

基調講演「今、子どもたちにとって大切なもの～それは大人とのふれあい～」

第2回 県北・県南研修 平成20年7月26日(土)・27日(日)

講義・ワークショップ

第3回 宿泊研修(牛窓センターカリエオンハウス) 平成20年8月9日(土)・10日(日)

講義・ワークショップ

第4回 平成21年1月31日(土)

講義・ワークショップ

第5回 晴れボラ・フェスタ 平成21年2月15日(日)

パネルディスカッション

*この他にボランティア実践(10～12月)自主研修会4回実施

(2) 生涯学習環境の整備・充実

施策の目標

県民の多様な学習ニーズに適切に対応するため、学習機会の充実や場の整備に努める。

【教育委員会での主な意見】

[平成20年8月22日(金)]

○岡山県立図書館の入館者数等について

- ・財政構造改革で図書購入の予算が削減されても、来館者数が減らないよう努力してほしい。

【教育委員会での審議等を踏まえた施策等】

○岡山県立図書館における改善点

- ・開館日数の増加
- ・県内高等学校への図書搬送

	H19	H20	増減
県立図書館個人貸出冊数	1,204,435	1,305,891	101,456

全国の都道府県立図書館でのトップレベル項目(平成20年度実績)

- ・購入冊数 49,125冊
- ・来館者数 1,065,031人
- ・個人貸出冊数 1,305,891冊

○ 施策の概要

ア 学習機会の充実

(ア) 生涯学習大学事業

県生涯学習センターにおいて、本県の特性を生かした講座を開設するとともに、多様な学習講座を体系化し、県民に系統的・継続的な学習機会を提供する生涯学習大学「のびのびキャンパス岡山」を開学した。

ア) 一般教養コース

ア 市町村広域連携講座・NPO連携講座

分野	講座名	受講者数
地域ふるさと講座	古代の備前地域－赤磐の歴史－ 赤磐市教育委員会社会教育課「赤磐の歴史を学ぶ」実行委員会	38人
	井原文化探訪(歴史と芸術を訪ねて) 井原市文化探訪実行委員会	39人
	高梁の歴史：中世から近代まで 高梁市歴史講座実行委員会	53人
	奥美作に森の歴史と伝説を訪ねて 鏡野ふるさと講座実行委員会	36人
NPO連携講座	子どもと関わるボランティア養成講座 特定非営利活動法人岡山市子どもセンター	31人
計		197人

イ) 専門教養コース

分野	講座名	開設機関名	受講者数
生活と福祉	生きがいづくり	順正短期大学	28人
国際理解	名作映画で楽しむ民族学	岡山学院大学	16人
自然・科学	中世山城の世界ー築城技術と政治・社会ー	美作大学	111人
歴史と文化	岡山の歴史遺産探訪	吉備国際大学	48人
健康・スポーツ	豊かな“こころ”と“からだ”を作ろう	新見公立短期大学	34人
能力開発	「子ども学」をともに学ぶ	中国学園・中国短期大学	13人
計			250人

ウ) 大学院コース

分野	講座名	開設機関名	受講者数
学習指導	おとなの学びと生き方	岡山大学	22人
生活と福祉	心豊かに生きる	くらしき作陽大学	88人
国際理解	暮らしと国際社会	岡山商科大学	20人
自然・科学	大学と地域社会の協力によるQOL（生活の質）向上を目指して	岡山理科大学	18人
歴史と文化	21世紀の暮らしと文化	倉敷市立短期大学	19人
健康・スポーツ	豊かな長寿社会・健康生活をめざしてー運動と食の重要性ー	倉敷芸術科学大学	10人
能力開発	パソコンとネットで活用するデジタルカメラ	津山工業高等専門学校	29人
計			206人

* 講座のVOD配信 新たに1講座1講義をインターネットで配信

エ) 連携講座：119機関 継続講座：92講座 短期講座：489講座

オ) 生涯学習大学「受講生の集い」（平成21年2月15日（日）参加者：335人）

(イ) 高等学校等開放講座

県立学校が有する専門的な教育機能を地域住民に開放し、人々の生活上、職業上に必要な知識・技術及び一般的な教養に関する学習の機会を提供した。

(講座数：10講座(10校) 参加者：230人)

イ 学習の場の整備・充実

(ア) 生涯学習センター事業

ア) 指導者の養成と研修

講座名	開催回数：参加者数等
生涯学習推進基礎講座	2回 参加者：市町村生涯学習関係職員 47人
生涯学習推進実践講座	9回 参加者：市町村担当職員等 延べ311人
パソコン指導者養成講座	5回 参加者：15人
「ばるネット岡山」促進講座	7回 参加者：延べ89人
いきいき生涯学習ボランティア活用！事業「晴れボラ・デビュー」	5回 参加者：延べ816人
映像ボランティア（指導者）養成講座	延べ5日 参加者：9人

イ) 情報提供

「ばるネット岡山」による学習情報の収集・提供

(情報登録件数：約61,500件 利用件数：69,300件)

ウ) 学習相談 (相談員：4人 相談件数：620件)

エ) 県民学習講座

講座名	開催回数：参加者数等
ばるシアター特別上映会	年2回 参加者：延べ463人
Windows Vista活用講座	年4回 参加者：延べ67人
パソコンセルフスタディールーム	年12回 参加者：延べ163人

(イ) 県立図書館の機能充実

県内図書館の中核的機能を持つ図書館として、また、生涯学習の拠点施設として、図書資料閲覧や貸出し、AV資料の視聴、資料案内・レファレンスサービス、さらには時代の要請に応えるビジネス支援などの来館者サービスのほか、市町村立図書館等と連携を図り、図書館横断検索システムや協力貸出し、インターネット予約貸出し、資料相互貸借、相互返却サービスなど全県域搬送システムを活用した非来館者へのサービスを積極的に行った。

○ 資料搬送システムの充実等利便性向上の取組

- ・ **新**県内高等学校への搬送事業実施 91校：13,736冊 (50校増：6,491冊増)
- ・ 県内図書館との相互貸借の増加 県立図書館からの貸出 40,387冊 (9,384冊増)
- ・ インターネット予約冊数の増加 73,869冊 (12,951冊増)

○ 資料等の充実

- ・ 蔵書冊数の増加 998,118冊 (67,244冊増)
- ・ 横断検索システム対象蔵書冊数 8,228,668冊 (965,492冊増)
- ・ 郷土情報ネットワーク登録件数 78,347件 (10,111件増)
- ・ レファレンスデータベース登録件数 3,214件 (224件増) [注] () 内は前年度比

<協働の成果>

図書館における読み聞かせなどのボランティアの養成、研修を行い、協働で図書館機能の充実を図ることができた。

ア) 情報発信の活性化

ア 映像コンテスト「デジタル岡山グランプリ」の開催

デジタル岡山大百科のコンテンツ充実に向け作品を募集

(募集期間：平成20年4月25日～10月31日 応募作品：148点)

イ 「メディア工房」(撮影室、編集加工室)の活用

香川県情報通信交流館「e-トピア・かがわ」と共同で、岡山・香川両県の小学生22人がデジタルビデオの撮影を行い、完成作品をWeb上で公開。

(平成20年7月23日・24日 7月29日・30日)

ウ 携帯電話サービスの充実とメールマガジン(メールマガジン配信登録者：1,173人)

イ) ビジネス支援の充実

ア レファレンス及びレフェラルサービス

イ 商用データベースの提供

日経テレコン21など商用データベースを無料で提供(指定データベース7種の利用回数：456回)



岡山県立図書館

ウ) 子ども読書活動の推進

ア) 児童資料部門の充実

- ・児童図書研究書の購入、新刊児童図書の全点購入
- ・イベントの開催

開催日(曜)	内 容	参加者
平成20年4月20日(日)	ヨムヨムおはなしまつり	52人
平成20年7月23日(水)～25(金)	小学生のためのおはなし会	104人
平成20年7月30日(水)	夏休みの自由研究教室	21人
平成20年11月22日(土)	夢づくり・県立図書館フェスタ「おはなし会フェスタ」	59人
平成21年1月10日(土)	ヨムヨムおはなしカルタまつり	31人
毎週土日曜日など	おはなしのへやでのおはなし会 実施回数：198回	4,950人

イ) 支援用図書を活用した団体貸出し

貸出し	冊 数	対 象
長期一括貸出し	51,521冊	8市町37施設
配本所貸出し	15,301冊	3町村9施設
へき地指定校配本貸出し	1,396冊	2町村8校
読書グループ貸出し	402冊	1町1団体

エ) 障害者へのサービス

ア) 対面朗読室におけるサービス

(朗読サービス：120件 録音図書等の利用：7件 録音図書作成：13件)

イ) 心身障害者用書籍、視覚障害者用録音物等の郵送貸出し

- ・心身障害者用冊子小包 433点 (登録者：247人)
- ・視覚障害者用録音図書 93点 (登録者：110人)
- ・聴覚障害者用映像資料 0点 (登録者：27人)

ウ) 夢づくり・県立図書館読書フェスタ

ア) 講演会・講座

開催日(曜)	内 容	参加者
平成20年11月1日(土)	「貴重資料-地図・絵図展- 講演会『絵図の楽しい見方』」 岡山大学教授 倉地克直 氏	60人
平成20年11月2日(日)	「ことばのコミュニケーション～文字・活字が語る文化の世界」 脚本家 ジェームス三木 氏	147人
平成20年11月16日(日)	異文化理解講座「世界はせまい 世界はまるい」 日本ユネスコ協会 片山主計 氏	26人
平成20年11月16日(日)	「赤毛のアンへの旅～秘められた愛と謎～」 作家・翻訳家 松本侑子 氏	165人

イ) 図書の展示会

開催日(曜)	内 容	参加者等
平成20年10月31日(金)～11月9日(日)	「貴重資料-地図・絵図展-」	627人
平成20年11月15日(土)～24日(月)	「子ども絵画展」	51作品
平成20年11月22日(土)～23日(日)	「いしかわこうじ絵本&原画展示」	287人
平成20年11月22日(土)～23日(日)	「のぶみ絵本&原画展示」	210人

カ) 県立図書館とことん活用講座

県立図書館の特色である主題別6部門の専門性を生かし、各部門が関係機関や団体と連携しながら、県民の求める様々なテーマで講座を開催することで、県民の課題解決を支援するとともに、図書館活用の拡大を図った。

回	開催日(曜)	内 容	参加者
1	平成20年6月1日(日)	「法律情報をもっと身近に」	48人
2	平成20年7月6日(日)	「本の中の恐竜たち」	63人
3	平成20年9月21日(日)	「日本と中国の漢字及び文化、習慣の違いについて」	45人
4	平成20年10月12日(日)	「ローカル鉄道の魅力と地域振興」	111人
5	平成20年12月6日(土)	「岡山の正月行事」	39人
6	平成21年2月15日(日)	「本を書いてみませんか?『著者』になる前に知っておきたい58のポイント」	38人

キ) **新**子どもナレーター全国発信!

子どもたちの読書活動の推進及び学力の向上(国語力の向上)のため、小学生を対象とした音読大会を開催し、優秀者を選考し表彰するとともに、「子どもナレーター」に任命した。

また、「子どもナレーター」がナレーションを担当して制作したデジタル絵本をデジタル岡山大百科のコンテンツとして登録し、インターネット上で全国に発信した。

- ・平成20年12月14日(日) 音読大会 (参加児童:30人、参観者:127人)
- ・平成21年2月27日(金) デジタル絵本の公開 (参加児童:30人、作品数:20作品)

「生涯学習の振興」施策の成果指標(「夢づくり協働指標」から)

○生涯学習の講師・ボランティアとして登録している者の数

[出典:生涯学習情報提供システム「ばるネット岡山」登録数]

現況値 (H18.4)	目標値 (H23)	実 績 値						備考
		H18(H18.4)	H19(H19.4)	H20(H20.4)	H21	H22	H23	
2,950	3,800	2,950	3,055	3,525				増

(単位:人)

○公的な生涯学習講座への参加者数

[出典:生涯学習・社会教育関係調査等]

現況値 (H18.3)	目標値 (H24.3)	実 績 値						備考
		H18(H19.3)	H19(H20.3)	H20(H21.3)	H21	H22	H23	
1,098,873	1,300,000	1,096,987	1,147,676 7ㄨ811,000	1,227,795				増

(単位:人)

○県民が1年間に公立図書館から借りた本の数

[出典:「日本の図書館」日本図書館協会調査]

現況値 (H17.3)	目標値 (H23.3)	実 績 値						備考
		H18(H18.3)	H19(H19.3)	H20(H20.3)	H21	H22	H23	
987	1,200	1,076	1,105	1,124				増

(単位:万冊)

2 家庭・地域社会の教育力の充実

(1) 家庭の教育力の充実

施策の目標

子どもたちの健やかな成長を促すため、子育てに関する学習機会の提供や相談・支援体制の整備などに努める。

【教育委員会での主な意見】

[平成20年4月4日(金)]

○「県下一斉あいさつ運動」の実施について

- ・あいさつ運動の日は、家庭でも、親子でもあいさつをするようにしよう。

[平成21年1月9日(金)]

○平成20年度すこやか子育て川柳について

- ・教育長賞の「朝ごはん 食べると脳みそ フルパワー」は今までと少し違う感じでよい。
- ・前年度に比べて、応募数が増えているが、応募者の男女比率は圧倒的に女性が多い。

【教育委員会での審議等を踏まえた施策等】

○家庭向け教育情報紙「こころのわ」(平成20年10月発行)において、あいさつ運動の趣旨を伝えた。

○平成20年度すこやか子育て川柳の応募数が増加した要因

- ・「子どもから家族へのメッセージ」をテーマとして採用
- ・学校へのピーアール

	H19	H20	増減
すこやか子育て川柳応募作品数	1,913	3,747	1,834

○ 施策の概要

ア 学習・交流機会の充実

(ア) 岡山県地域家庭教育推進協議会の設置

家庭教育支援の充実を図るため、学識経験者、関係行政担当者、教育関係者、子育てサークルのリーダー等17人からなる岡山県地域家庭教育推進協議会を設置した。

(イ) 新地域における家庭教育支援基盤形成事業

身近な地域において子育てサポーターリーダー等で構成する「家庭教育支援チーム」を設置し、情報や学習機会の提供、相談体制の充実をはじめとするきめ細かな家庭教育支援を行う基盤形成事業を実施した。(4市)

(ウ) 新親の学び協働推進事業

子育て支援団体やNPO等と行政が連携し、お互いのもつノウハウやメリットを最大限に生かし、家庭の教育力の向上を目指した親及び親子の学びを推進するプログラムを企画・開発する事業を実施した。また、その成果を広く全県に周知するために「親の学び協働推進フォーラム」を開催した。(3実行委員会)

イ 相談・支援体制の充実

(ア) すこやか育児テレホン（電話・メール相談）の開設

- ・開設日：毎日（年末年始を除く）・開設時間：8:30～23:00（電子メールは24時間受付）
- ・相談件数：2,817件

(イ) すこやか家庭教育相談員養成講座

家庭教育に関する専門的知識やカウンセリングに関する知識・技術の修得及び資質の向上を目指し、18講座を実施。（修了者：32人）

(ウ) 市町村家庭教育担当者等研修会

まちぐるみの家庭教育支援体制の構築を目指し、市町村家庭教育担当者等が一堂に会し、家庭教育支援に求められていることについて研修を深めるとともに、家庭教育支援の在り方について市町村間の情報交換を行った。（平成21年2月4日(水)・2月18日(水)）

(エ) 家庭教育手帳・啓発リーフレットの配付、すこやか子育て川柳の募集

一人ひとりの父親、母親が家庭を見つめ直し、自信をもって子育てに取り組んでいくきっかけとなるよう、「家庭教育手帳」を母子健康手帳の交付時に配付したり、小学新1年生・新5年生の全ての親に配付した。また、文部科学省が作成した啓発リーフレット「子育て応援します」や子育てのポイントを示した県の啓発リーフレット「子どもへのプレゼント」を市町村教育委員会、社会教育関係機関等に配付した。さらに、家庭教育の啓発及びおかやま教育の日関連事業として、すこやか子育て川柳を募集した。年度末には、県や市町村、子育て団体等の取組をまとめた家庭教育事例集「すこやか」を作成し、保育所、幼稚園、小・中・高等学校、市町村教育委員会、関係団体等に配付した。

(2) 地域社会の教育力の充実

施策の目標

放課後等において、地域の協力による子どもの安全で健やかな活動拠点づくりを推進するなど、地域社会の教育力の充実に努める。

【教育委員会での主な意見】

[平成20年6月6日(金)]

○岡山県社会教育委員の任命について

- ・委員の人選に当たっては、ある程度、新陳代謝が図られた方がよい。
- ・組織化された団体以外にも活発に活動しているところもあるので、いろいろな年代の方についても考えるべきだ。

○平成21年度教育行政重点施策について

- ・「学校支援地域本部事業」の背景として、教員の多忙化を地域社会が補完するように受け取られる恐れがある。地域社会が学校教育を支援するという事業の趣旨に合わせるべきだ。

【教育委員会での審議等を踏まえた施策等】

	H19	H20	増減
放課後子ども教室数	144	161	17
学校支援地域本部数	—	12	12

○ 施策の概要

ア 地域の教育力の活性化

(ア) 放課後子ども教室推進事業 国

放課後や週末等に小学校の余裕教室等を利用して、地域の方々の参画を得て、子どもたちと共に学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を推進した。

- ア) 放課後子どもプラン推進委員会の設置
- イ) 合同研修会の開催
- ウ) 放課後対策事業運営委員会の設置(23市町村)
- エ) コーディネーターの配置
- カ) 放課後子ども教室の実施(161教室)

ア 地域の大人と子どもが交流できる場を設置した。

イ 異年齢・異世代間の交流活動や子どもたちに様々な体験活動を提供した。

ものづくり(工作・料理)、伝統芸能、スポーツ教室、読み聞かせ、囲碁・将棋教室
レクリエーション大会等



放課後子ども教室「川あそび」

(イ) 新学校支援地域本部事業 国

おおむね中学校区に「学校支援地域本部」を設置し、地域住民による学校支援ボランティアの参画を得て、地域全体で学校教育を支援する体制を整備した。

- ア) 運営協議会の開催
- イ) 地域コーディネーターの養成
- ウ) 事業成果報告会の開催

- エ) 啓発リーフレット「はじめよう！学校支援地域本部」の作成・配付
- カ) 学校支援地域本部の設置（12本部）

(ウ) 「地域のヤングリーダー」養成事業

公民館や児童館などの地域の施設で、継続的に子どもたちに遊びやものづくりなどを教える中・高校生及び大学生のリーダーを養成した。（10市町）



ヤングリーダーによるカッター指導

<協働の成果>

放課後子ども教室の実施、地域のヤングリーダーの育成等社会全体で子どもをはぐくむ気運の醸成に向けて、地域と協働で取り組んだ。

イ 社会教育活動の充実

(ア) 社会教育委員の会議

全体会議を2回、専門部会を3回開催し、提言「社会全体で子どもを育む方策・取組について」の作成に向け、ケーススタディを行いながら協議した。

(イ) 社会教育専門職員の設置促進

各地域における社会教育活動の積極的な推進を図るため、その中心的役割を果たす専門職員の行政機関や社会教育施設等への設置を促進した。

(ウ) 社会教育専門職員の指導力の向上

社会教育を適正かつ効果的に推進するため、各種研修事業の内容充実に努めた。また、社会教育計画の立案、学習方法の研究など専門職員の資質向上を図った。

ア) 社会教育主事等研修

ア 前期 （平成20年5月20日(火)～21日(水) 県生涯学習センター 参加者：87人）

イ 後期 （平成21年2月17日(火)～18日(水) 県生涯学習センター 参加者：84人）

イ) 社会教育施設職員研修

ア 公民館職員等研修（平成20年6月5日（木）、9月25日（木）、12月18日（木）
岡山市内ほか 参加者：327人）

イ 図書館職員研修（平成20年9月～平成21年2月（3回） 県立図書館 参加者：146人）

ウ 青少年教育施設職員研修（平成21年2月7日(土)～8日(日) 国立吉備青少年自然の家）

(エ) 社会教育関係団体育成等

社会教育活動を強力かつ円滑に進めるため、主要な役割を果たす社会教育団体やグループの育成に努めるとともに、その活性化を図った。

ア) 第56回岡山県青年祭（参加者：665人）

ア 体育の部（平成20年8月3日(日)、8月17日(日)、8月24日(日)、9月7日(日)
岡山市内ほか 参加者：588人）

イ 文化の部（平成20年9月7日(日) 岡山市 参加者：77人）

イ) 第57回全国青年大会（平成20年11月7日(金)～10日(月) 東京都国立競技場ほか 派遣：115人）

ウ) 社会教育関係団体活動助成（県青年団協議会ほか8団体）

(3) 学校・家庭・地域社会の連携強化

施策の目標

学校・家庭・地域社会の連携により、子どもの生活リズム向上や読書活動の推進を図る。

【教育委員会での主な意見】

[平成21年2月6日(金)]

○ぱっちり！モグモグ“ツーウィーク”について

- ・朝食バランス豆知識として、主食・主菜・副菜の3つ揃うのが望ましいとあるが、ハードルが高いので、糖質だけでも摂るようにするなど実施しやすい方法にした方がよい。
- ・小学生が自分で目標を決めて取り組むのはよい。
- ・小学生は早く寝ることを身に付けることで早く起きるので、早く起きる目標だけを決めるのは難しい。今回の結果を分析して、次回に生かしてほしい。

【教員との意見交換会における教育委員の意見】

- ・学校においても地域との連携を生かした取組が大切だ。

【教育委員会での審議等を踏まえた施策等】

	H19	H20	増減
「おかやま教育の日」をはさむ前後2か月間の取組数 (学校開放、発表会、文化祭、講演会等)	2, 214	2, 399	185
毎日朝食を食べている子どもの割合(%)	81	84	3

○ 施策の概要

ア 学社融合の推進

(ア) 子どもの生活リズム向上のための取組

関係団体・企業等と連携して「早ね早おき朝ごはん」県民運動を展開した。また、学校や家庭と連携して、チャレンジカードを使って生活リズムを見直す「ぱっちり！モグモグ“ツーウィーク”」に取り組んだ。

(イ) 「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業

ボランティア活動や家族参加の体験活動、地域の様々な課題に取り組みながら解決する活動などを通じて、住民同士が「学びあい、支えあう」地域のきずなづくりを推進した。

(13実行委員会 17事業 参加者：20,203人)

(ウ) 生きる力支援事業「夢さがしの旅」

教育上配慮を必要とする子ども（不登校傾向の児童生徒や屋内に引きこもりの児童生徒）が学校や家庭を離れ、自分を見直し、将来の自分を探して学んでいくための目標を見つけることができるように、学校教育、社会教育関係者等が連携し、各社会教育施設の特性を活かした活動を通して、子どもの自立を支援する「夢さがしの旅」を実施した。

- ・県内の青少年教育施設・実行委員会（6施設 年間13回実施）

(参加家族：延べ180家族 参加小学生：延べ104人 参加中学生：延べ108人)

(エ) 家庭向け教育情報紙の発行

家庭・学校・地域社会が一体となった教育を推進するため、保護者や県民に対し、本県の教育に関する情報提供を積極的に行った。

- ・「こころのわ」平成20年10月(特集「確かな学力向上の推進」) 25.7万部発行

(オ) おかやま教育の日

平成13年6月、全国に先駆けて条例制定した「おかやま教育の日」の趣旨を、新聞やテレビ等の広報媒体、ホームページ、懸垂幕などによる啓発活動等を通じて、広く県民に周知し、教育についてみんなで考え、県民を挙げて教育に取り組む気運の高揚を図った。

また、11月1日から7日までのおかやま教育週間を中心に、県下全域の関係団体(市町村教育委員会、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・大学、各種団体等)に広く呼びかけ、さまざまな事業を展開した。

(カ) 子どもほっとライン(電話相談)の実施

- ・開設日：毎日(年末年始を除く)
- ・開設時間：平日17:00～23:00 土・日・祝日8:30～23:00(電子メールは24時間受付)
- ・相談件数：2,492件

(キ) 青少年団体活動の充実

青少年団体に対し、研修事業の開催委託や諸活動(各種事業、指導者養成等)への助成を行った。

(ク) P T A 活動の充実

- ア) 指導者研修会(県内8会場 参加者 1,298人)

P T A 役員等の指導者を対象として、P T A の運営や活動の在り方に関する研修の充実に努めた。

- イ) 指導資料作成

「わたしたちのP T A 学校・家庭・地域社会を結ぶP T A -子どもの健やかな成長をめざして-」を作成(3,000部)し、県内市町村教育委員会、各単位P T A等に配付した。

- ウ) 団体育成

団体に対し、諸活動(会員研修会等)への助成を行った。

イ 子ども読書活動の推進

平成20年3月に策定した「第2次岡山県子ども読書活動推進計画～おかやまどンドン読書プラン～」に基づき、県内の子どもたちが、あらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことのできる環境の整備に向け、各種事業に取り組んだ。

(ア) 新「地域で進めるどンドン読書実践プログラム～プログラム開発～」事業

地域の読書関係者等で構成した実行委員会を設立し、家庭や地域、学校と連携した活動推進プログラムを企画・実践した。また、広域での読書活動推進のネットワークの拡充を図った。(13市町村)

(イ) 新「地域で進めるどンドン読書実践プログラム～サポート・セミナー～」事業

- ア) 子どもに手渡す本の選び方等、選書に関するセミナー(6回：延べ約360人)

- イ) 市町村計画策定のためのポイントを示すセミナー(20市町 参加者：44人)

(ウ) 読書ボランティア活動の推進

- ア) 岡山県立図書館ボランティア研修会(児童サービス支援コース)

(講座3日 受講者：延べ56人)

- イ) 岡山県立図書館ボランティア養成講座(布絵本制作コース)

(基礎講座1日 専門講座4日 参加者：10人)

- ウ) 朗読技術ステップアップ講座

(講座 毎月1～2回 受講者33名 成果発表会2回 来場者：延べ168名)

(エ) 啓発資料の作成

読書ボランティアの支援をねらいに、読書ボランティア活動の目的や活動する上での留意点等を具体的にまとめた小冊子を作成し、県内読書ボランティア団体に配付した。

(4) 人権教育の推進

施策の目標

人権問題についての理解と認識を深め、自らの課題として日常生活に生かせる人権感覚を身に付けるための教育・啓発を推進する。

【教育委員会での主な意見】

[平成20年7月4日(金)]

- 「インターネットに関する保護者向けリーフレット」について
 - ・携帯電話は人の心を傷付ける道具にもなるという事実を理解してもらうための工夫が必要だ。
 - ・親としては長時間電話や学力低下に関心があると思われるが、携帯電話の危険性の方が重要だ。
 - ・イラストで親が携帯電話から電話とGPSを想像しているのに対し、子どもは親とは違うことを考えている点はよく考えて作られている。

【教育委員会での審議等を踏まえた施策等】

- 学校等あて通知「児童生徒が利用する携帯電話等をめぐる問題への取組の徹底について」(平成20年7月)
- 「携帯電話の利用に関する研修資料」等をホームページに掲載(平成20年8月)
- 「子ども向け学習教材」をホームページに掲載(平成20年12月)
- 学校等あて通知「児童生徒の携帯電話の利用に関する指導指針」(平成21年3月)
- 保護者へのアピール及び携帯電話事業者4社への要請(平成21年3月)

○ 施策の概要

ア 市町村における人権教育の推進

(ア) 市町村等指導事業 (人権教育推進員派遣回数: 45回)

人権教育推進員が、市町村や学校等を指導のため訪問した。

(イ) 人権教育総合推進事業 (2地域)

人権教育の総合的な推進の在り方についての研究を行い、地域ぐるみで進める人権教育の実践を県下に広めた。

イ 指導者の養成

講義、実践発表等を行い、人権教育推進上の諸課題について研究協議し、資質・指導力の向上を図った。

(ア) 市町村人権教育担当者等研修会 (2会場 111人)

(イ) 社会教育関係団体指導者人権教育研修会 (6会場 1,026人)

(ウ) 人権教育・啓発指導者講座

ア) 人権教育・啓発指導者講座Ⅰ (6回 40人受講)

イ) 人権教育・啓発指導者講座Ⅱ (2回 86人受講)

○平成20年度に開講したテーマの一例

講義「中国残留邦人の概要について」

(講師：中国帰国者支援・交流センター中四国支部次長 清古英俊氏)

受講者の声

- ・「在住外国人の人権課題と違って、これまで取り上げられなかった人権課題であり、歴史的背景、帰国者の生活の現状、支援の在り方など具体的な課題が理解できた」
- ・「以前に比べて報道も低調になってきており、情報に接する機会も少なくなっている現在、改めて課題意識を持つことができた」



講義の様子



プログラム作成の様子

演習「研修プログラムをつくってみよう！」

- ・人権課題に関するQ&Aづくり
- ・研修プログラム作成
- ・効果的な人権教育・啓発の在り方、手法についてグループ協議

<協働の成果>

民間団体の職員等を研修講師として招き、リーダーの養成に努めるなど、協働の取組は進んだ。

ウ 「人権の世紀21おかやま」推進事業

(ア) 人権教育市町村サポート事業

市町村が総合的な人権教育を推進していくために行う事業に要する経費の一部を補助した。

- ア) 市町村人権教育推進委員会等推進事業 (実施市町村数：21市町村 58事業)
- イ) 市町村人権教育指導者養成講座開設事業 (実施市町村数：15市町 17事業)
- ウ) 人権教育自立促進事業 (実施市町村数：13市町 52地域)
- エ) 人権教育交流活動事業 (実施市町村数：14市町 36地域)
- オ) 社会教育関係団体人権教育研修事業 (実施市町村数：24市町村 41団体)
- カ) 人権学習機会提供事業 (実施市町村数：10市町 42事業)

エ ふれあい人権劇推進事業

(ア) **新**ふれあい人権劇推進事業

日常生活に生かせる人権感覚育成のため、人権劇の取組について市町村へ委任した。

(実施市町数：6市町)

「家庭・地域社会の教育力の充実」施策の成果指標（「夢づくり協働指標」から）

○毎日朝食を食べている子どもの割合

[出典：児童生徒の朝食摂取状況の現状に関する調査]

現況値 (H18.7)	目標値 (H23)	実 績 値						備考
		H18(H18.7)	H19(H20.1)	H20(H20.11)	H21	H22	H23	
81	86	81	81	84				増

(単位：%)

○様々な体験活動に参加した青少年の数

[出典：社会教育施設での青少年対象講座参加者数、岡山チャレンジワーク14の参加生徒数]

現況値 (H18.3)	目標値 (H24.3)	実 績 値						備考
		H18(H19.3)	H19(H20.3)	H20(H21.3)	H21	H22	H23	
102,205	112,000	106,724	110,736	121,593				増

(単位：人)

○家庭教育相談員の養成数 [出典：すこやか家庭教育相談員養成講座修了者数]

現況値 (H18.3)	目標値 (H24.3)	実 績 値						備考
		H18(H19.3)	H19(H20.3)	H20(H21.3)	H21	H22	H23	
474	780	614	658	690				増

(単位：人)

○人権啓発・教育リーダー数（累計） [出典：人権教育・啓発指導者講座修了者数]

現況値 (H17.3)	目標値 (H24.3)	実 績 値						備考
		H18(H19.3)	H19(H20.3)	H20(H21.3)	H21	H22	H23	
115	300	185	219	258				増

(単位：人)

3 学校教育の充実

(1) 学力向上の推進

施策の目標

きめ細かな指導や特色ある教育を展開し、子どもたちの確かな学力向上を図るとともに、時代の進展に対応した教育を推進する。

【教育委員会での主な意見】

[平成20年9月5日(金)]

○平成20年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

- ・岡山県の学力の全国順位もさることながら、家庭学習の習慣や家庭で過ごす時間をもっと大切にするように考えていかなければならない。
- ・教員が授業に集中できる環境を作ることが必要だ。
- ・調査結果のよくない学校の成績をいかに上げていくかが重要だ。

[平成21年3月23日(月)]

○学力向上に向けて作成した指導資料について

- ・家庭教育サポートブックが家庭に配布されることにより、いろいろな面でよい影響があると思われる。

【教育委員会での審議等を踏まえた施策等】

○平成20年度に作成した学力向上を図るための資料

- ・習熟度別指導実践事例集～少人数指導の効果を高めるために～
- ・「自分の考えを持ち、それを表現する力」の向上に向けて～小・中学校の授業改革の提案～
- ・家庭教育サポートブック[就学前編、小学校編、中学校編、情報編]
- ・ハンドブック「自信を持って取組 信頼される教師を目指して」
- ・落ち着いた学校環境をつくるために

○ 施策の概要

ア 教育内容の充実

(ア) 教育課程の適切な編成と運営

- ア) 教育課程の管理(県立学校)
- イ) 教育課程研究協議会
- ウ) 指導主事研修会

(イ) 教材の精選と学習形態、指導方法の工夫並びに基礎・基本の徹底

学校訪問、研究指定校訪問、教育研究団体研究会等における周知

(ウ) 教育研究指定校による研究の推進とその活用

各教科・領域等について、学校現場における実践的研究を委嘱し、教職員の研究活動の促進を図るとともに、その成果の活用に努めた。

ア) 研究内容

学力向上、道徳教育、体験活動、キャリア教育、環境教育、生徒指導、特別支援教育等

イ) 研究指定校（県、文部科学省指定）

公立小学校35校、公立中学校11校、公立高等学校17校、地域指定15地域

（エ）高校教育改革の推進

生徒の多様化に対応して、一人ひとりの個性の伸長をより適切に図るために、「学校間連携による単位認定」、「大学・高等専門学校・教育施設等との連携による単位認定」、「知識及び技能に関する審査の合格に係る単位認定」及び「ボランティア活動・就業体験等の成果に係る単位認定」の実施を促進した。

ア) 学校間連携による単位認定（県立高等学校 3校）

イ) 大学・高等専門学校・教育施設等との連携による単位認定（県立高等学校 9校）

ウ) 知識及び技能に関する審査の合格に係る単位認定（県立高等学校 33校）

エ) ボランティア活動・就業体験等の成果に係る単位認定（県立高等学校 15校）

（オ）学校経営予算

学校の教育活動について、必要・実態に応じて学校自らが立てた計画に基づいて予算配分を行うシステムを確立し、学校長の裁量の拡大を図った。（県立学校）

（「総合的な学習の時間」学習支援、学校図書館図書充実、社会人講師活用等）

（カ）高校エキスパート活用事業

県立学校において、専門的な技能や能力を有する企業や地域の人材147人を非常勤講師として59校へ配置し、学校の特色に応じた専門性の高い指導を生徒に行い、専門的・発展的な学習を進めた。

（キ）目指せスペシャリスト 国

指定校において、地域の産業界・研究機関等と連携し、先端的な技術等を取り入れた教育や伝統的な産業に関する学習活動を重点的に行い、地域社会を担う将来の専門的職業人の育成を目指した。（指定校：県立倉敷工業高等学校、玉野市立玉野商業高等学校）

（ク）高等学校職業教育技術顕彰

県内の高等学校及び特別支援学校高等部に在籍する生徒のうち、職業資格取得者を顕彰することにより、生徒の技術・技能の習熟、目的意識や学習意欲の向上を図った。（顕彰者数：779人）

（ケ）へき地、小規模校の教育の充実

へき地教育等各種研究会への教員派遣、複式学級新担任者研修講座の開催などにより、へき地、小規模校の教育の充実に努めた。

（コ）幼稚園教育の充実

平成20年3月に告示された幼稚園教育要領について、県内3地域において新教育課程説明会を開催し、周知を図った。

イ きめ細かな指導の推進

（ア）中学校及び小学校第5・6学年の学級編製の弾力化

いじめや不登校が急増する中学校について、全学年において3学級以上の中学校58校において、学級編制基準を35人とし、きめ細かな指導を推進した。

また、小・中学校のスムーズな接続を図る観点から、いじめ、不登校などの課題が増加し始める小学校第5・6学年についても、3学級以上の小学校20校において、学級編制基準を35人とし、きめ細かな指導を推進した。（新小学校第5学年に拡大）

（イ）小1グッドスタート支援事業

地域住民等362人を、学級担任の補助を行う教育支援員として小学校第1学年で児童数の多い学校145校に配置し、児童の基本的な生活習慣の確立や基礎学力の向上を図るとともに、義務教育の円滑なスタートを図った。

(ウ) 全国学力・学習状況調査 国

全国的な調査により、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、調査結果を活用した授業改善等に取り組んだ。

ア) 調査の実施状況

- ア 実施日：平成20年4月22日
- イ 実施対象：小学校第6学年、中学校第3学年
- ウ 実施教科：国語、算数・数学

イ) 調査に関わる取組

- ア 調査結果の分析
- イ 分析結果を踏まえた授業改善の取組等を具体的に示した資料の作成
- ウ 市町村や学校を対象とした、県下全体の状況、授業改善の視点についての説明会

(エ) 進路指導の充実

ア) 高等学校進路指導担当者連絡協議会及び県就職問題連絡協議会を開催し、進路指導の充実並びに学校、関係諸機関との密接な連携による進路保障の推進を図った。また、新規高卒予定者に対する就職支援の一環として、就職面接会を2回（11月、2月）開催し、求人・求職の結合の促進を図った。

イ) 高校生のためのジョブフェア（合同企業説明会）

就職を希望する生徒にできるだけ早くから様々な職業について理解を深めるとともに、働くことの意義を考えさせるため、学年を問わず就職を希望する生徒を対象に、岡山労働局等の協力のもと、採用意欲のある企業の参加を募った合同説明会を、岡山、倉敷、津山の3会場で実施した。（参加企業数：117社 参加生徒数：延べ1,032人）

ウ) 職場適応指導

高等学校卒業者の早期離転職の増加が指摘されていることから、学校における進路指導の一環として、卒業生の就職先である事業所等を訪問し、卒業生を適切に支援するとともに、在校生への進路指導に役立つ資料や新しい情報の収集、応募先の新規開拓など、進路指導の充実を図った。

ウ 教職員の指導力の向上

(ア) 言葉の力向上プロジェクト

「確かな学力」を形成するための基盤である「言葉の力」を育成するために、その指導の在り方について研究を行った。

ア) 言葉の力を育成するための指導の在り方について協議・提案を行う「言葉の力向上委員会」の設置

イ) 県総合教育センターにおける言葉の力育成研修会の実施

(イ) **新**学力向上検討委員会

県及び市町村教育委員会、大学教官、学校等で組織する検討委員会を設置し、小学校から高等学校までを見通した学力向上施策の実施と検証を行った。

(ウ) **新**授業改革支援事業

ア) 授業改革協力員の委嘱

国語、算数・数学、英語教育に関して豊かな専門知識と経験を有する教諭100名を授業改革協力員として委嘱し、所属校や近隣の学校で行う授業改革研究会での授業公開や授業研究への協力、学習指導案をはじめ授業展開の好事例等の県への素材提供を行った。

イ) 授業改革モデル研究会の開催

県下3会場において、大学教官及び授業改革協力員等による授業公開及び研究協議等を行い、各地域で実施する授業改革研究会のモデルを示した。

ウ) 授業改革研究会の開催

授業改革協力員の協力を得て、各地域で近隣の学校が協同して国語、算数・数学、英語等の授業公開及び研究協議等を実施するとともに、県教育委員会は、所管の教育委員会の要請に基づき、指導主事を派遣した。

エ) 研究指定校による実践研究

小学校12校、中学校6校を指定し、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて作成した授業改善プランに基づき、学校の課題改善に向けた取組を推進した。

オ) 総合教育センターによる出前講座

国語、算数・数学、英語等の授業改革に係る校内研修を支援するため、出前講座を実施した。

カ) 授業展開の好事例を集めた素材集の作成

授業でつまずきやすい単元の授業展開の好事例や学力をさらに伸ばす工夫例等を示した素材を研究指定校及び授業改革協力員等から収集し、素材集を作成した。

キ) 算数・数学アドバイザーの派遣

19校の小規模校等に退職教員を、週1回、1日4時間、35週、非常勤として配置し、授業改革の支援を行った。



算数・数学アドバイザーによる授業の様子

(エ) **新学習到達度確認テスト**

ア) 学習到達度確認テストの作成

大学教官を監修者とする小・中学校教員及び指導主事による作成委員会を組織し、算数・数学において単元ごと及び年度末の学習状況を確認できるテスト問題を作成した。

イ) データ処理システムの作成と活用

テストの掲載及び結果データを処理するシステムを作成した。テスト問題及び解答例等は、このシステムを使って掲載し、学校は、必要なテスト問題をダウンロードし、児童生徒に対して実施した。

データの集計・グラフ表示等により、教員は、全県的な状況と自校の結果を比較・分析し、児童生徒の学習のつまずきの把握や指導の改善を図った。

(オ) **新学力向上実践研究推進事業**

小学校1校・中学校2校の指定校で、地域の実情や課題を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養う実践研究を推進した。

(カ) **アクティブハイスクール**

生徒一人ひとりの学力向上と進路希望の実現のため、基礎・基本と知的総合力の徹底向上に取り組む県立高等学校を支援し、明確な目標と確かなプロセス、組織的な展開と的確な評価による改善を通じた学力向上の方法を研究した。(指定校：県立高等学校4校)

<協働の成果>

専門性の高い有識者の指導や先輩教員の的確な助言により、各学校での授業改善が進み、教員の指導力の向上や児童生徒の学習意欲の喚起につながった。

エ 時代の進展に対応した教育の推進

(ア) **情報化に対応した教育の推進**

ア) 県立学校IT基盤整備事業

県立学校において、高速インターネットへの接続、情報教室のコンピュータ整備等により情報通信機器の幅広い活用を可能にし、児童生徒への教育を効果的に行う環境づくりを推進した。

(イ) 国際理解教育の推進

国際化社会にあって、教職員や児童生徒が諸外国の文化について理解を深めるとともに、国際的視野に立ってわが国の文化や伝統を見ることができるよう国際理解教育を推進した。

ア) 外国語指導助手（ALT）の配置

外国語教育・国際理解教育の一層の充実を図るため、外国語指導助手28人を県立学校へ派遣した。（英語：27人、仏語：1人）

イ) 岡山県・南オーストラリア州教員相互派遣

岡山県の英語教員を2年間南オーストラリア州へ派遣し、日本語指導を行うとともに、南オーストラリア州の英語教員を1年間受け入れ、県立高等学校等で英語指導を行った。

ウ) 中国江西省交流事業

中国江西省から教育訪問団（6人）を受け入れ、岡山県教育庁との協議や学校訪問を通して、両県省の教育交流の推進と相互理解を行った。

エ) 小学校における英語教育推進事業 国

小学校における英語活動等国際理解活動について、指導方法等の確立を図るため、地域の学校のモデルとなる拠点校を指定し、外国語指導助手や地域人材等の効果的な活用を含めた実践的な取組を推進することにより、当該地域全体の水準の向上を図った。

（拠点校：公立小学校8校）

オ) スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール 国

指定校において、大学等と連携しながら、英語教育を重視したカリキュラムの開発や指導方法及び評価についての研究を行った。（指定校：県立倉敷南高等学校）

(ウ) 科学技術教育の推進

ア) 「科学の実験教室」開催促進事業

児童生徒を対象にNPO等が行う「科学の実験教室（観察・実験講座、科学工作、サイエンスショーなど）」の活動について3団体を支援し、科学技術や理科が好きになる子どもの育成を図った。

イ) 理科支援員等配置事業 国

外部人材を理科支援員として配置することにより、授業における観察・実験活動の充実を図るとともに、教員の資質向上を図り、小学校における理科授業の充実を図った。

（配置校：公立小学校64校）

ウ) “理数に挑戦！”中学生大集合

中学生を対象として、理科や数学の様々な問題に挑戦する機会を提供するとともに、サイエンスショーなどを実施することにより、理科や数学に対する興味・関心及び能力を一層高め、県内理数教育の発展・充実を目指した。応募者数は415人で、そのうち20人を優秀者として表彰した。

エ) スーパーサイエンスハイスクール 国

指定校において、理科・数学に重点を置いた取組を大学等と連携しながら実践し、将来の科学技術系人材の育成を図った。（指定校：県立倉敷天城高等学校、県立玉島高等学校）

(エ) 環境教育の推進

ア) スーパーエンバイロメントハイスクール

環境教育を重点的に行う県立高等学校2校を指定し、カリキュラムの開発、大学や研究機関との効果的な連携方策等について研究を推進し、問題を正しく理解し、その解決に積極的に取り組むことのできる人材の育成を図った。

ア 高松農業高等学校：家畜排泄物の処理プラントによる循環型農業の推進等の研究

イ 東岡山工業高等学校：シュレッダーダストから酵素を利用したエタノールの製造と残渣成分による苗ポットの製作の研究

(2) 心の教育の推進

施策の目標

道徳教育の充実や体験活動を重視した教育、いじめ・不登校等の未然防止と早期解決に向けた取組を推進し、豊かな心を育成する。

【教育委員会での主な意見】

[平成20年4月4日(金)]

- 「いじめについて考える週間」について
 - ・いじめは職場など大人の世界にもある。小さいときからいじめはだめだと教育するべきだ。
 - ・ネットいじめ防止のカードをこの機会に配布するなど、印象に残るよう、定着のための取組が必要だ。
- 「県下一斉あいさつ運動」について
 - ・あいさつは、学校で言われてからするのではなく、日常の中でするものであることを徹底することが一番大切だ。
 - ・学校に限定するのではなく、また、「おはよう」に限定することなく、家庭でもあいさつをするよう呼びかけるべきだ。

[平成20年4月18日(金)]

- 「携帯電話等に関するアンケート調査」結果について
 - ・携帯電話にフィルタリングがかかっていることを一見して分かるようにしてもらいたい。
 - ・出会い系サイトについては、アンケート結果に表れていないものがあるのではないか。
 - ・携帯電話には楽しい面もあれば、危険も多いことを、親と保護者に認識してもらわなければならない。

[平成20年7月4日(金)]

- 「インターネットに関する保護者向けリーフレット」について(再掲)
 - ・携帯電話は人の心を傷付ける道具にもなるという事実を理解してもらうための工夫が必要だ。
 - ・親としては長時間電話や学力低下に関心があると思われるが、携帯電話の危険性の方が重要だ。
 - ・イラストで親が携帯電話から電話とGPSを想像しているのに対し、子どもは親とは違うことを考えている点はよく考えて作られている。
- 教育相談の実施状況について
 - ・教育相談窓口として、保護者がどこに相談したらよいか分からない場合があるので、関係機関間の結びつきを強め、一体化を進めた方がよい。

[平成20年8月22日(金)]

- 児童生徒の問題行動等に関する調査結果(速報)について
 - ・岡山県の長期欠席者、不登校の数が全国平均と比較して多い理由を解明するのは難しいが、特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーの活用など、今後、どのような取組をしていくかを考えたい。

[平成21年2月20日(金)]

- 学校における携帯電話の取扱い等について
 - ・フィルタリングされている携帯電話かどうか外からみて分かることが必要だ。メーカーや国に働きかけてほしい。
- 「不登校についての意見交換会」の意見概要について
 - ・保護者の意見のとおり、発達障害への理解が不十分な教師がいるとすれば問題だ。きちんと勉強してもらわないといけない。
 - ・意見交換会を通じて親の気持ちが落ち着いたら、子どもにもよい影響があると思われる。

【教育委員会での審議等を踏まえた施策等】

○いじめを許さない学校をめざして～いじめ問題実践事例集～（平成20年3月）

- ・いじめの未然防止（豊かな人間関係づくりと心の教育、生徒会等の児童生徒の自主的な活動を生かした取組、未然防止のための体制づくり）
- ・いじめ発見時における対応事例（いじめ及びその兆候を発見した際の対応体制、解決が困難ないじめ、新たないじめに対する効果的な対応）

○携帯電話関係（再掲）

- ・学校等あて通知「児童生徒が利用する携帯電話等をめぐる問題への取組の徹底について」（平成20年7月）
- ・「携帯電話の利用に関する研修資料」等をホームページに掲載（平成20年8月）
- ・「子ども向け学習教材」をホームページに掲載（平成20年12月）
- ・学校等あて通知「児童生徒の携帯電話の利用に関する指導指針」（平成21年3月）
- ・保護者へのアピール及び携帯電話事業者4社への要請（平成21年3月）

○ 施策の概要

ア 道徳教育の充実

幼・小・中・高等学校・特別支援学校の教諭を対象に、道徳教育の諸問題の解決を図り、道徳教育の一層の充実に向けて研修会を行った。さらに、市町村教育委員会と連携し、各学校における道徳の時間の確保と充実に努めた。

（ア）**新**「心豊かなおかやまっ子」育成研修会

就学前から高等学校段階までの心の教育の充実を図るため、県内公立の幼稚園・小・中・高・特別支援学校において道徳教育を担当している教諭を対象に、学習指導要領の改訂の動向を踏まえた道徳教育推進の方向性や具体的な進め方等について認識を深めるための研修を行い、教員の指導力の向上を図った。（平成20年6月20日、11月25日）

（イ）共に生きる子ども育成プロジェクト

子どもたちの他人への思いやりや粘り強さ、責任感などの道徳性や社会性をはぐくんだ。

ア) モデル校園による実践研究

「道徳性（の芽生え）」や「社会性」などを育てるため、道徳や特別活動を中心としたカリキュラムの開発や、家庭・地域社会との連携、外部人材の活用、異校種間の連携などを視野に入れた実践研究を行った。（幼稚園2園、小学校3校、中学校3校）

イ) 子ども体験発表会

「共に生きる子ども育成プロジェクト」事業の研究指定校の児童生徒が平素の取組や成果を発表する機会を設け、県内の学校・園における道徳教育、特別活動等の充実・推進を図った。

（ウ）道徳教育実践研究事業 **国**

学習指導要領の趣旨や、児童生徒、学校、家庭及び地域等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育を推進するための実践研究を行い、その成果を普及することにより道徳教育の充実を図った。（小学校4校、中学校3校、高等学校2校）

イ 体験活動の充実

(ア) 岡山チャレンジ・ワーク14

中学生が望ましい職業観や勤労観を育て、将来の自己の生き方を考え、様々な課題を乗り越えながら学習や生活にチャレンジすることができるよう、ほぼ全ての中学校において3日間程度の職場体験活動を行った。



岡山チャレンジワーク14活動風景

(イ) 豊かな体験活動推進事業 (国)

ア) 農山漁村におけるふるさと生活体験推進校

推進校において、校区の自然環境や生活環境とは異なる地域での宿泊体験活動を行った。

(推進校：公立小学校1校)

(ウ) “飛び出せ！専門高校生”地域実践サポート事業

県立専門高等学校生徒が、実習や課題研究等の学習で学んだ成果を、アンテナショップ開設や近隣農家の休耕田管理支援など社会の実践の場で生かすことで、専門的な学習の深化につなげるとともに、専門高校についての地域住民の理解を深めるなど地域とのパートナーシップ確立に成果を上げた。(県立専門高等学校10校)

(エ) 高校生“熱き心”徹底応援プロジェクト

県立高等学校の生徒会などが、各学校や地域の特色を生かして、地域との交流や地域のイベントへの協力、ボランティア活動などの企画を実施することで、地域に貢献することの喜びや地域の魅力の再発見、社会の一員としての自覚や他人を思いやる心をはぐくんだ。

(県立高等学校6校)

(オ) キャリア教育

ア) 新新キャリア教育推進プラン

平成17年度から平成19年度までの3年間実施してきたキャリア教育推進事業の成果を継続させながら、市町村教育委員会と連携した全県的な推進体制を確立するとともに、小・中・高等学校の発達段階に応じたキャリア教育の推進を図った。

ア) 岡山県キャリア教育研究協議会の設置 (NPO法人等との協働)

県内の全ての学校でキャリア教育を推進し、小・中・高等学校の系統的なキャリア教育の在り方等について研究するため、NPO法人・大学・企業・学校・行政関係者等による会議を年2回開催した。

イ 「キャリア教育指導者養成研修」の開設

小・中・高等学校における組織的なキャリア教育を推進するためのミドルリーダーの育成をねらいとした研修を、県総合教育センターにおいて実施した。

(小学校教員85名、中学校教員163名、高等学校・特別支援学校教員80名)

ウ 「キャリア教育推進プログラム実践校(高等学校)」の指定

県立高等学校を実践校に指定して、キャリア教育の推進に資する特色ある取組を支援した。

・キャリア教育支援員〔外部人材〕活用プログラム実践校(11校)

・学校外の教育機能活用プログラム実践校(10校)

イ) キャリア教育実践プロジェクト (国)

指定地域において、地域の教育力を最大限に活用し、中学校を中心とした職場体験等の5日間の実施など、キャリア教育の推進を図るための調査研究を実施した。

(指定地域1地域：公立中学校1校)

り) 高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究 (国)

高等学校、特に、普通科高校におけるキャリア教育を充実するため、指定校において、指導内容・指導方法の充実・改善や外部人材の配置及び活用の在り方、高等学校卒業者及び中途退学者への各支援方法などについて調査研究した。(指定校：県立高等学校2校)

(カ) ボランティア教育の推進

子どもたち一人ひとりがボランティア活動に自然に溶け込めるよう、学校行事、総合的な学習の時間等を通して、ボランティアの意義や活動の進め方についての学習を推進した。

(キ) 高校生「県産材活用」UD整備事業

高校生自らが企画・提案した「木の快適空間」をユニバーサルデザインの観点に立ち、県産材を活用して整備した。

整備校・企画グループ名	整備概要	決算額(円)
岡山南高等学校 岡山南高ブランド 開発プロジェクト	商品実験室の床・壁面を木材張りとし、学習の場や地域との交流の場として使用できる多目的教室に改修 面積：152㎡	9,979,200
井原高等学校 井原家庭クラブ すくすく	保育実習室の壁面・天井の一部を木材張りとし、収納棚等も木製で整備 面積：122㎡	9,979,935

(ク) 高校生「エコ広場」UD整備事業

高校生自らが企画・提案した「憩いの広場」をユニバーサルデザインの観点に立ち、エコ製品を活用して整備した。

整備校・企画グループ名	整備概要	決算額(円)
倉敷天城高等学校 プロジェクト鉄軒	武道場南側及び図書室西側の広場をエコ製品を使って整備 面積：579㎡	9,999,150
矢掛高等学校 矢高中庭再生 プロジェクト	中庭にエコ製品を使って、水辺空間を整備 面積：1,051㎡	9,943,500

(ケ) 学校文化活動の促進

ア) 鑑賞・体験機会の提供と文化の担い手育成

ア 創作発表会の実施状況

事業名	期日	会場	入場者数
第32回岡山県高等学校総合文化祭 (総合開会式、16部門の開催)	平成20年5月5日～ 平成21年2月8日	倉敷チボリ公園 ほか	10,171人

イ 青少年劇場巡回公演の開催状況

区分	演目	期日	会場	入場者数
青少年劇場 巡回公演	劇団みんな座 「とべないホテル」 「白いりゅう黒いりゅう」ほか	平成20年5月19日～ 5月30日	県内10小学校	3,550人

ウ 本物の舞台芸術体験事業（学校公演）の開催状況

区分	演 目	期 日	会 場	入場者数
オーケストラ	東京フィルハーモニー交響楽団 「カルメン」前奏曲ほか	平成20年9月8日～ 平成21年1月13日	県内5小学校 1中学校	1,702人
ミュージカル	ミュージカルパニーツフォーリーズ 「フェアブル昆虫記」	平成20年10月8日～ 平成21年2月20日	県内5小学校	1,500人
児 童 劇	人形劇団ひとみ座 「あやうしズッコケ探検隊」	平成20年11月10日～ 平成21年2月5日	県内4小学校	631人
演 劇	劇団道化座 「スーホの白い馬」ほか	平成20年9月24日～ 10月10日	県内2小学校 3中学校	954人
能 楽	三宅狂言会 「盆山」ほか	平成20年9月16日～ 9月17日	県内1小学校 1中学校	448人
人形浄瑠璃	人形浄瑠璃文楽座 「伊達娘恋緋鹿子」	平成20年10月2日～ 10月6日	県内1小学校 2中学校	917人
洋 舞	法村友井バレエ団 「くるみ割り人形」	平成20年11月10日	県内1中学校	567人

エ 子どもの映画鑑賞普及事業の開催状況

区分	演 目	期 日	会 場	入場者数
映 画	マリと子犬の物語	平成20年7月8日	備前市立日生 地域公民館	255人
	クイール	平成20年10月31日	玉野市立 日比中学校	262人

オ 地元オーケストラによる各種公演

事 業 名		期 日	会 場	入場者数
スクールコンサート 「岡山フィルハーモニック管弦楽団」		平成20年5月9日 ～6月7日 10月1日～31日	県下25小・中・高等 学校ほか	8,396人
中・高校生のための公開レッスン 「岡山フィルハーモニック管弦楽団」	管 楽	平成21年1月17日	ベルフォーレ津山	28人
		平成21年1月18日	まなび広場こいみ	11人
	弦 楽	平成21年1月31日 平成21年2月7日	県立岡山芳泉高等学校 清心女子高等学校・清心女子中学校 倉敷市立琴浦中学校	18人 31人
児童生徒に贈るハッピー・ハートフル コンサート（鑑賞と合同演奏等）		平成20年11月10日 平成20年11月11日 平成20年11月12日	久米南町文化センター やかげ文化センター 朝日塾小学校	347人 577人 660人

イ) 発表機会の提供と文化交流の促進

ア 全国高等学校総合文化祭派遣事業

第32回全国高等学校総合文化祭が、平成20年8月6日から8月10日までの5日間にわたり、群馬県において開催され、岡山県からは16部門413人を派遣した。

ウ 学校適応の推進

(ア) 校内指導体制整備

ア) 生徒指導連絡協議会

生徒指導上の諸問題について、各学校の生徒指導担当者が情報交換、研究協議等を行うことにより、学校における生徒指導の充実を図った。

ア 小学校：平成20年5月30日（県総合教育センター）

イ 中学校：平成20年5月20日（県総合教育センター）

ウ 高等学校、特別支援学校高等部：平成20年5月23日、平成21年1月20日（県総合教育センター）

イ) 学校コンサルテーション

いじめ、不登校、学級が機能しない状態、問題行動等、生徒指導上の諸問題や障害のある児童生徒一人ひとりに応じた支援等について、県総合教育センター指導主事が公立小・中・高・特別支援学校の校内支援チームに対するコンサルテーションを行うことにより、より有効な校内指導体制の整備を図った。

(イ) 教育相談体制の充実

県総合教育センター、県青少年総合相談センター、倉敷・高梁・津山教育相談室において、教育相談（面接・電話）を次のとおり実施し、個別指導の徹底を図った。

また、県青少年総合相談センターにおいては、進路相談も実施した。

区 分		相 談 回 数	相 談 内 容	会 場	相 談 日
県総合教育センター	教育相談	面接相談	不登校・いじめ、集団適応等	県総合教育センター	月～土※
		電話相談			月～金
	医師による教育相談				毎月第4水曜日
	特別支援教育相談	面接相談			月～土※
		電話相談			月～金
県青少年総合相談センター及び教育相談室	面接相談	不登校・いじめ等	県青少年総合相談センター・3教育相談室	週3～毎日	
	電話相談			週3～毎日	
	面接相談	進路相談	県青少年総合相談センター	毎日	
	電話相談				

※土曜日は長期休業中を除く第2・4土曜日のみ実施

(ウ) 学校適応推進に係る事業

ア) 新生徒指導推進協議会

生徒指導上の課題に対して、学校・家庭・地域における取組の一層の推進を図るため、学識経験者や関係機関・学校関係者（13名）による協議を年2回行った。

平成20年9月：ネットいじめへの対応、教室に入れない児童生徒等への指導の在り方

平成21年2月：不登校への対応、問題が長期化し解決が困難な事例への対応

また、不登校の課題を解決するための具体的な施策や取組について、不登校児童生徒の保護者や親の会の関係者等と話し合う意見交換会を年2回行った。

さらに、学校において問題行動が起こった時の現地調査に「問題行動調査チーム」を派遣した。（派遣件数：1件）

イ) スクールカウンセラー配置事業 **国**

臨床心理士等のスクールカウンセラーを県内全公立中学校（163校）へ配置し、生徒・保護者へのカウンセリングや、教職員への指導助言を行った。

ロ) スクールサポーター配置事業

不登校生徒が存在し、かつ4学級以上の公立中学校（139校）及び小学校（20校）に地域人材等を活用したスクールサポーターを配置し、児童生徒や保護者の訪問支援等を行った。

エ) 「心の専門家」派遣事業

公立小学校及び県立高等学校に、不登校等、学校不適応の状況にある児童生徒のケース会議に臨床心理士等の「心の専門家」を派遣し、今後の対応方針等について助言を行った。

（公立小学校40校に3回ずつ、全県立高等学校に平均5回の派遣）

ウ) 不登校対策のための教員派遣事業

深刻な不登校問題を抱える中学校40校に非常勤講師を配置した。

カ) **新**いじめ防止プロジェクト

6月第1月曜日から1週間を「いじめについて考える週間」として設定し、学校におけるいじめの未然防止等についての取組を発表する「いじめ防止推進大会」を開催した。

また、児童生徒からいじめ防止ポスター及び標語を募集し、県教育長賞・優秀賞については、平成20年12月に開催した「いじめ防止フォーラム」において表彰した。

（応募総数 ポスター：2,079点、標語：11,845点）

「いじめ防止フォーラム」においては、いじめに関する論文・作文の発表や、いじめについての子どもたちによる意見交換会を実施し、「岡山県子どもいじめ防止宣言」を採択した。

さらに、「いじめ防止教室」への講師派遣を行った。

（小学校10校、中学校6校、高等学校2校、特別支援学校2校）

キ) 進路相談事業

中・高等学校における不登校生徒や高等学校中途退学者の適切な進路選択を支援するため、3会場ごとに、進路相談会を各2回実施した。（相談件数：延べ約1,100件）

ク) 問題を抱える子ども等の自立支援事業

長期に及ぶ不登校の状態になることを未然に防ぐために有効な支援策として、地域における教育と福祉及び保健・医療領域との連携を進めていくとともに、連携を推進するコーディネーターを養成した。

また、いじめ、不登校、暴力行為、高校中退、児童虐待の5つの課題について、未然防止、早期発見、早期対応の効果的な取組について、地域の課題を明確にし、課題解決に向けた取組の工夫や効果的な方策を見出すための研究を市町村において行った。（11市町）

ケ) 学校問題解決支援事業

学校と保護者等との間で解決が困難になった問題等について解決を図るために「学校問題相談窓口」を設置した。（相談件数：67件）

また、学校における生徒指導上の重大な事案が発生した際に、現地で助言・指導を行う「緊急危機支援チーム」を派遣した。（派遣件数：1件）

(エ) 児童生徒健全育成推進に係る事業

ア) 岡山県学校警察連絡協議会

学校と警察が連携して児童生徒への健全育成に関する取組を推進し、児童生徒の問題行動への対応の充実を図った。（県内22署の地区学警連会長、警察、教育行政関係者等による総会を2回実施）

イ) 生徒指導ネットワーク事業

指導課内に警察OB等による生徒指導ネットワーク相談員3人を配置し、学校からの要請に基づき、問題行動ケース会議や非行防止教室等を開催し、学校と関係諸機関との行動連携の促進を図った。

ウ) 生徒指導総合連携推進事業 ④

指定地域において、地域の関係機関が一体となって、少年非行等の多様な問題行動の予防と解決に向けて、地域のネットワークづくり等実践的な取組を行った。(指定地域：瀬戸内市)

エ) 生徒指導推進協力員配置事業 ④

小学校段階からの問題行動への指導体制強化として、経験豊富な退職校長や警察官OB等を生徒指導推進協力員として配置し、中学校区内の小学校を巡回した。

(3市5中学校区14小学校)

(3) 高等学校教育体制の整備・充実

施策の目標

多彩な才能をはぐくむ創意ある教育活動を展開する活力ある学校づくりを目指し、高等学校教育体制の整備・充実に取り組む。

【教育委員会での主な意見】

[平成20年5月23日（金）]

○再編により整備する新しい高等学校の教育内容等について

- ・再編で閉校となる学校については、知恵を絞って、出来る限り地元の方が寂しい思いをしないように努力すべきだ。

[平成20年11月21日（金）]

○県立高等学校再編整備方針について

- ・蒜山地区については、校地としての存続を考慮に入れるなど相当特別に考えている。中高一貫教育を実施していることから、中学校の教育内容の充実も必要だ。

[平成20年12月19日（金）]

○県立中等教育学校の設置について

- ・初となる中等教育学校を設置する際には、教員の質が成否に関わる。高校で教えてきた教員が中学生を教えるためには、研修を十分に行うなどの配慮が必要だ。

【教育委員会での審議等を踏まえた施策等】

○県立中等教育学校の設置について（平成22年度開校予定）

〈教育の特色〉

- ・1学年4学級（160人）のコンパクトな規模で、全員把握、全員理解の教育
- ・6年間を発達段階で3区分（基礎期、充実期、発展期）した教育
- ・教育課程の基準の特例を活用し、先行学習を導入した6年間を見通した教育
- ・体験を重視し、学校設定教科等による学習の深化（「知識と体験の融合」）

○ 施策の概要

ア 入学者選抜制度・方法の改善

（ア）自己推薦による入学者選抜の実施

多様な能力・適性や意欲・関心を持つ生徒が、自分に合った進路を主体的に選択し、入学後も意欲的に学校生活を送れるようにするため、また、希望する全ての生徒に受検の機会を拡大するために、自己推薦による入学者選抜を全県立高等学校で実施した。これにより、高等学校においても、学科等の特色に応じた選抜資料、選抜方法の工夫が図られ、自校にふさわしい生徒の入学を一層促進した。

（イ）学力検査問題の自校作成

入学者選抜において、受検者の学力や適性等によりきめ細かく応じた選抜を実施するため、希望する学校において、一般入学者選抜の学力検査問題を各高等学校が独自に作成した。

（実施校及び作成教科：岡山朝日高等学校（国語、数学、英語））

（ウ）学力検査の得点の簡易開示

岡山県個人情報保護条例に基づき、一般入学者選抜で実施する学力検査の各教科の得点を簡易な方法による開示請求によって受検者本人に開示した。

（エ）県立高等学校の生徒募集定員

平成21年度県立高等学校第1学年の生徒募集定員は、本県の学区制の趣旨に照らし、進学機会

の確保と中学校卒業者の進路の適正化に資するため、県高等学校教育研究協議会の答申等の趣旨を尊重しながら、県内各地域の中学校卒業人数の動向、公立高等学校間の教育分担、中学校卒業者の進学希望状況などを慎重に見きわめ、次のとおり策定した。

課程	学 科 名	平成21年度定員A	平成20年度定員B	前年度差 A - B
全 日 制	普 通 科	6,260人	6,420人	△160人
	普通科系の専門学科	680人	720人	△40人
	農 業	705人	705人	—
	工 業	1,640人	1,720人	△80人
	商 業	1,480人	1,480人	—
	家 庭	480人	480人	—
	看 護	120人	120人	—
	情 報	40人	40人	—
	福 祉	40人	40人	—
	その他の専門学科	150人	150人	—
	総 合 学 科	560人	560人	—
	計	12,155人	12,435人	△280人
定 時 制	普 通 科	120人	120人	—
通 信 制	普 通 科	500人	500人	—
専 攻 科	看 護	120人	120人	—

※普通科系の専門学科は、理数科、国際情報科、体育科、未来創造科及びキャリア探求科
 ※その他の専門学科は、総合情報科、環境科学科、環境技術科及び環境デザイン科

イ 高等学校の魅力づくり

(ア) 活力ある高等学校づくりの推進

平成19年度から「活力ある高等学校づくり推進事業」を実施し、高等学校の魅力づくりに向けた研究を継続した。

岡山大安寺・鴨方・矢掛の3校について、学校と県教育委員会とで推進協議会を設置し、平成21年度以降の導入・実施に向けた具体的な検討を進め、岡山大安寺高等学校の中等教育学校への改編、鴨方・矢掛の教育システムの改善を決定した。

- ア) 中等教育学校に改編するもの
 岡山大安寺高等学校普通科→中等教育学校（平成22年度）
- イ) 総合学科の系列を設定するもの
 鴨方高等学校（平成21年度）
- ウ) 単位制の教育課程を一部改編するもの
 矢掛高等学校普通科（平成21年度）

(イ) 中高一貫教育の推進

平成20年12月に、本県初の中等教育学校を平成22年度に開校することを決定し、平成21年4月に、岡山大安寺高等学校内に県立新設中等教育学校開校準備事務局を設置することとした。

ウ 県立高等学校の再編整備

岡山県立高等学校教育体制整備実施計画に基づき、平成14年4月に13グループ30校を検討対象校として決定し、平成14年度は6グループ16校[注1]、平成15年度は5グループ11校[注2]の検討に着手し、平成19年度からは、残る2グループの検討に着手した。

弓削・津山工業高等学校グループについては、平成20年5月に「中間まとめ」を取りまとめ、これを基に地域の意見を聴きながら議論を深め、平成21年3月には「最終まとめ」として新しい学校の概要を取りまとめた。この間、平成20年8月には、県教育委員会において、再編整備の実施年度を平成22年度、新しい学校の校地は津山工業高等学校地とする再編整備方針を決定した。

真庭地域4校については、平成20年8月に「第1次まとめ」を取りまとめ、地元関係者の意見を聴きながら議論を深め、平成20年11月には、県教育委員会において、蒜山高等学校についての再編整備方針を決定した。

なお、落合・久世・勝山高等学校については、引き続き検討することとした。

[注1] 川上農業・成羽・高梁工業高等学校グループ
至道・落合・(久世)・(勝山)高等学校グループ
大原・江見商業・林野高等学校グループ
矢掛・矢掛商業高等学校グループ
児島・琴浦高等学校グループ
新見・新見北高等学校グループ

[注2] 金川・福渡・(弓削)高等学校グループ
備作・和気閑谷高等学校グループ
日本原・勝間田高等学校グループ
吉備北陵・高梁高等学校グループ
井原・精研高等学校グループ

エ 再編整備実施に伴う通学費貸付事業

再編整備に伴い遠距離通学を余儀なくされる生徒に対し、通学費負担増の激変緩和措置として、期間を限定した通学費貸付制度を実施した。

募集停止した 高校	対象中学校	指定高校	貸付月額 (円)	貸付者数 (人)	貸付額 (千円)	対象期間	
成羽高校	成羽中学校 川上中学校 備中中学校	高梁高校 高梁城南高校 (高梁校地)	18,000	1	216	H16～H20 (H16.3～H18.3 中学校卒業生)	
至道高校	有漢中学校 北房中学校	高梁高校 高梁城南高校 (高梁校地) 落合高校 久世高校		1	216	H16～H20 (H16.3～H18.3 中学校卒業生) ※落合高校看護科 は5年一貫教育の ためH22まで実施	
大原高校	大原中学校 西栗倉中学校	林野高校 江見商業高校		3	648	H16～H20 (H16.3～H18.3 中学校卒業生)	
福渡高校	建部中学校	岡山御津高校 弓削高校				H17～H21 (H17.3～H19.3 中学校卒業生)	
備作高校	吉井中学校 英田中学校 佐伯中学校 柵原中学校	津山高校 津山工業高校 津山商業高校 津山東高校 和気閑谷高校 瀬戸高校 瀬戸南高校 勝間田高校 林野高校		2	432	H17～H21 (H17.3～H19.3 中学校卒業生) ※津山東高校看護 科は5年一貫教育 のためH23まで実 施	
日本原高校	勝北中学校 奈義中学校	津山高校 津山工業高校 津山商業高校 津山東高校 勝間田高校 林野高校		12	2,484	H17～H21 (H17.3～H19.3 中学校卒業生) ※津山東高校看護 科は5年一貫教育 のためH23まで実 施	
吉備北陵高校	加茂川中学校 竹荘中学校 吉川中学校 大和中学校	高梁高校 高梁城南高校 岡山御津高校		9	1,944	H18～H22 (H18.3～H20.3 中学校卒業生)	
江見商業高校	大原中学校 作東中学校 西栗倉中学校	林野高校 勝間田高校		10	2,160	H19～H23 (H19.3～H21.3 中学校卒業生)	
合	計				38	8,100	

(4) 特別支援教育の推進

施策の目標

障害の状態や発達段階等に応じて、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすよう、その環境を整備・充実する。

【教育委員会での主な意見】

[平成20年12月19日（金）]

○平成20年度岡山県立特別支援学校への就学等の状況について

- ・特別支援学校生徒の就職については、就職先となる企業の状況が変わってきたこともあるだろうが、障害の重い生徒の出来ることで就職先を開拓することが必要だ。
- ・就職してから離職することのないよう、職場適応指導が必要だ。

[平成20年12月19日（金）]

○「通常学級における特別支援教育」リーフレットについて

- ・新たに作成する就学支援シートやファイルは、子ども一人一人の状態についての資料を保存することによって、個別対応の方法も分かり、適切な対応に役立つと思う。
- ・授業改善や支援の具体的な事例を掲載したホームページについては、閲覧した教員が、実際に自分の学級に同じような事例の子どもがいたときの参考となるよう整理して、すぐに取り出せて活用できるようにしてほしい。

【教育委員会での審議等を踏まえた施策等】

○「岡山県特別支援教育推進プラン（平成21年3月）」の概要

- ・特別支援学校の教育の充実と教育体制の整備
(複数の障害種に対応する学校、学校配置の適正化、教員の専門性の向上、センター的機能の充実、高等部教育の充実)
- ・小学校、中学校、高等学校等における特別支援教育の充実
(就学前における支援の充実、小・中学校における特別支援教育の充実、高等学校における特別支援教育の充実)

○ 施策の概要

ア 教育体制の整備

- (ア) **新**岡山県特別支援教育推進プランの策定
- (イ) 特別支援教育体制整備プロジェクト会議の開催（年4回）
- (ウ) 特別支援学校における医療体制の整備
 - ア) 肢体不自由部門への看護師配置
 - イ) 医療的ケア充実事業
- (エ) 誕生寺養護学校校舎整備の実施
- (オ) 就労による社会自立を目指す高等部単独の特別支援学校の開校準備
(県立岡山瀬戸高等支援学校：平成21年度開校、倉敷地域：平成22年度開校予定)



岡山瀬戸高等支援学校 開校式・入学式

イ 就学指導体制の整備充実

- (ア) 県特別支援教育就学指導委員会（全体会2回、専門部会9回）
- (イ) 巡回就学相談（県下7会場、各1日、相談件数114件）

(ウ) 就学指導等地方研究協議会（市町村教育委員会等対象4会場、各1日）

(エ) 就学指導等連絡協議会

（市教育委員会、特別支援学校就学指導担当者等対象、各1日）

ウ 教職員の指導力の向上

(ア) 内地留学、各種研究大会等への教員派遣

(イ) 教職員研修

ア) 特別支援教育教育相談研修講座、特別支援教育授業づくり研修講座、特別支援教育基礎研修講座、重度・重複障害児の理解と支援研修講座

イ) 発達障害児の理解と支援研修講座、アセスメント研修講座

ウ) 免許法認定講習（視・聴・知（各1単位）、視・聴・知・肢・病共通（2単位））

エ) 特別支援学級等新任担当教員研修講座

オ) 特別支援学級等担当教員スキルアップ研修講座

(ウ) 特別支援学校における初任者研修、10年経験者研修、15年経験者研修の実施

エ 特別支援教育の推進

(ア) 特別支援教育推進事業

ア) 特別支援学校のセンター的機能充実事業

ア 公開講座の開催

イ) 校内支援データベース作成事業

児童生徒に対する具体的な支援の手立てをデータベースとして広く提供

(イ) 医療的ケア充実事業

ア) 日常的、応急的医療的ケアに対応する看護師等連絡協議会

イ) 医療的ケアに係る運営協議会

(ウ) **新**発達障害等支援事業

ア) 特別支援連携協議会の設置（広域：年2回、地域：4支援地域、年2回）

教育・福祉・医療等関係機関の連携協力

イ) 専門家チームの設置（4支援地域）

大学教授・医師・臨床心理士等で構成、巡回相談員と同行して実態把握・助言等

ウ) 巡回相談員の派遣（4支援地域）

特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室の教員で構成、小・中学校等を訪問しての実態把握・指導助言等

エ) 専門家チーム・巡回相談員連携会議の開催（4支援地域・年2回）

オ) スーパーサポートチーム連絡協議会

カ) 発達障害等地域支援体制整備委託事業（津山市、玉野市、井原市、新見市、美作市）

キ) 高等学校における発達障害等支援事業（12校）

(エ) 市町村における支援体制整備 **国**

ア) 発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業

（指定先（地域指定）：全県 平成20年度文部科学省委嘱事業）

イ) 発達障害早期総合支援モデル事業 **国**

（指定先（地域指定）：笠岡市 平成19～20年度文部科学省委嘱事業）

(オ) **新**「通常学級における特別支援教育」の作成・配付（配付先：小・中学校）

(カ) **新**特別支援学校職業自立推進事業

ア) 就業支援アドバイザー配置事業

企業における障害者雇用の担当経験者等を就業支援アドバイザーとして配置

イ) ジョブ支援員活用事業

中学部2年～高等部3年の生徒を対象に実施する企業における就業体験において、個々の生徒の実態に応じて必要な個別支援を行うジョブ支援員を配置

ウ) 作業学習における作業種の開発（特別支援学校2校）

産業社会の変化、職業自立を目指す生徒のニーズに対応した働く意欲や力を育成する作業種を開発

オ 障害児に対する正しい理解の推進

(ア) 特別支援学校体験入学事業

(児童生徒、保護者、教育委員会担当者、教職員等対象)

(イ) **新**発達障害児支援フォーラム

<協働の成果>

大学教授、医師、臨床心理士で構成された専門家チームの派遣で、大学や医療機関等との連携により、幅広く地域の人材を活用することができた。

(参考数値)

高等学校の専門家チームの派遣学校率	H19	H20	増減
	17.1	29.4	12.3

(5) 学習環境の整備・充実

施策の目標

総合教育センターを中核に教職員の一層の資質向上を図るとともに、耐震化をはじめとする施設等の整備・充実に努める。

【教育委員会での主な意見】

[平成21年1月23日(金)]

○岡山県の教員採用等の在り方に関する検討委員会報告書について

- ・学校外から民間人校長を採用しているが、こうした考え方を生かして、ユニークな考え方ができる優秀な人材を登用できる環境を作るべきだ。

[平成21年1月23日(金)]

○平成20年度岡山県教育委員会メンタルヘルス対策委員会審議のまとめについて

- ・メンタルヘルスについては、社会が正しい認識をもつ必要がある。自然に受け入れられる体制をつくるのが、対策の大きな部分を占める。
- ・職場でのキーパーソンを養成することのだが、若いメンタルヘルス不調者は、年齢層の高いキーパーソンとは意識を共有することはできないので、養成研修には若い人も入れた方がよい。
- ・キーパーソンや所属長への働きかけは十分なようだが、職場全体で意識を共有することが課題だ。

※キーパーソン：組織の中で、特に全体に大きな影響を及ぼす「鍵となる人物」のこと

【教育委員会での審議等を踏まえた施策等】

○報告書「県民から信頼される教員採用等を目指して(平成20年12月)」の概要

- ・教員採用候補者選考試験における改善策
(年齢制限の緩和、特別選考の拡充、教科(科目)ごとの採用候補者見込数の公表、選考基準等の公表、選考結果の情報提供の拡大)
- ・管理職選考審査における改善策
(小・中・特別支援学校と高等学校における受験資格等の可能な範囲での統一、教育委員会事務局職員等からの管理職等への任用における一定の基準)

○ 施策の概要

ア 開かれた学校づくりの推進

(ア) 学校自己評価・学校評議員制度の実施

小・中・高・特別支援学校の教頭、教諭を対象に、開かれた学校づくりの在り方等について、実施校等の成果を基に研修講座を実施するとともに、学校運営や教育内容について、全ての県立学校に「学校評議員」を設置し、保護者や地域住民の意向を把握し反映することにより開かれた学校づくりを一層推進した。

(イ) 学校評価推進のための実践研究 国

本県における学校評価システムの在り方について検討するとともに、推進地域において研究をより一層深め、新学校評価システムの効果的な運用や「第三者評価の手引き」の作成、研修の在り方の検討を行った。(推進地域：矢掛町)

イ 教職員の資質向上

(ア) 県総合教育センター事業

ア) 業務内容

ア 教職員研修

イ 教育に関する調査研究

ウ 教育情報の収集及び提供

- ・ 図書・資料の収集・提供
- ・ マルチメディア教材の収集・貸与
- ・ カリキュラムサポート（学習指導案、教材作成等の支援）等
- ・ インターネットによる情報発信

エ 学校支援

・ 要請訪問

町村教育委員会の要請を受けて、指導主事を学校に派遣し、教育課程、学習指導、生徒指導上の諸課題の解決について助言を行うなど、域内の学校力向上のために必要な支援を行った。

・ 学校力向上サポートキャラバン事業

市町村教育委員会や学校等の要請を受けて、研究会や研修会に指導主事を派遣し、学校力向上及び時代の進展に対応した教育等についての講義・助言を行うなど、各地域及び学校の教育活動の充実のために必要な支援を行った。

(イ) 研修講座

教職の重要性と教育についての基本的理念を十分認識し、資質・識見の向上、指導力の充実を図ることを目的とした「岡山県教職員研修講座」を、県総合教育センターを中心として企画・実施した。

ア) 基礎・基本研修

ア 経験年数別研修：ライフステージに応じた資質・能力の向上

初任者（新規採用者）研修、5年経験者研修、10年経験者研修、15年経験者研修

イ) 発展・応用研修

ア 職能研修：職に応じた資質・能力の向上

校長研修、教頭研修、主任研修、担当者研修

イ 教科領域別研修：受講者の希望する教科領域の資質・能力の向上

教育経営研修、教科教育研修、生徒指導研修、特別支援教育研修、情報教育研修

ウ 課題別研修：喫緊の課題等に対応した領域の資質・能力の向上

ウ) 教育職員免許法等に定められた研修会 ㊦

免許法認定講習（小・中・養護教諭一種免許状、特別支援学校教諭二種免許状取得希望者及び実習助手）

エ) 教員免許更新制 ㊦

平成21年4月からの教員免許更新制の円滑な導入に向けて、制度周知や現職教員の保有免許状調査、教員免許管理システムの開発試行、県内大学・短期大学等との免許更新講習の開設についての連絡会議等を行った。また、岡山大学では免許更新講習の試行等が行われた。

(ウ) 内地留学等派遣

教員としての知識及び技術を深め、その資質の向上と指導力の充実を図るために、公立学校の教員を大学院等に派遣した。

ア) 大学院派遣

（兵庫教育大学大学院：4人、岡山大学大学院：修士課程4人、教職大学院10人）

イ) 産業教育（岡山大学：3人、県立大学：2人、民間企業：2人）

ウ) 特別支援教育（岡山大学：1人、国立特別支援教育総合研究所：3人、事業所：2人）

(エ) 独立行政法人教員研修センター研修講座への派遣

独立行政法人教員研修センターが、校長・教頭、中堅教員等に対し、学校の管理運営、学習指導などの諸問題について、それぞれの職務に必要な研修を行い、その見識を高め、指導力の向上を図ることを目的に実施している研修講座に、公立学校の教員を派遣した。

- ア) 校長・教頭等研修：11人
- イ) 中堅教員研修：15人

(オ) 教員の長期社会体験研修

社会の構成員としての視野の拡大や発想の転換など教員の資質の向上を図る観点から、長期にわたって民間企業や社会福祉施設等の学校以外の施設等へ教員を派遣した。

- ア) 派遣対象：原則として教職経験5年以上の者
- イ) 派遣人数：小学校6人、中学校6人、高等学校6人、特別支援学校2人
- ウ) 派遣期間：6か月

(カ) 大学院修学休業

教員の自発的意思に基づく専修免許状取得のため、国内外の大学院等への修学機会を確保した。

(キ) 岡山大学教育学部との連携協力

平成12年9月1日に岡山大学教育学部との間で「連携協力に関する覚書」を締結した。平成20年度は、「連携協力会議専門部会」（平成20年7月30日開催）と「連携協力会議」（平成20年8月28日開催）において実施内容等について協議を行い、次の事項に取り組んだ。

- ア) 教員養成に関する事項
日本語指導の必要な外国人子女への学生ボランティアによる教科学習支援、県総合教育センターにおける研修講座及び発表会の学生への公開、現職教員等による教員養成への協力、教職志望学生のインターンシップ事業、学生による学力向上支援事業への協力
- イ) 教員研修に関する事項
教員研修の共同開催、算数・数学教育指導力向上推進事業、10年経験者研修への協力、家庭科教員の資質向上のための研修、サイエンスパートナーシップ・プロジェクト、中・高等学校美術科の授業作り等
- ウ) 学校教育上の諸問題への対応に関する事項
子ども24時間電話相談事業への多面的な連携協力、「生きる力」支援事業、教職員のメンタルヘルス対策、大学・大学院での教員養成カリキュラムの改善
- エ) その他両者が必要と認める事項
附属学校園を活用した研修講座の開催、情報化に対応した教育の充実、県生涯学習大学「大学院コース」講座の開設
- オ) 重点事業（平成20年度）
教職希望学生の学校教員インターンシップ事業、教員研修の共同開催

(ク) 教育研究団体助成

幼・小・中・高等学校等の教育研究団体の研究活動を促進するため、各種研究大会の開催、研究調査の実施等に要する経費の一部を助成した。（7団体 2,400千円）

(ケ) 新しい教職員の評価システム等の在り方に関する調査研究 ㊦

平成18年度から県内の全公立学校に導入した「新しい教職員の評価システム」が、教職員の資質能力の向上と学校組織の活性化のために、さらに有効なものとなるよう、「新しい教職員の評価システム調査研究委員会」で実施状況の調査や定着に向けた研究を行い、実施要綱、実施マニュアルの改訂を行った。

なお、指導力不足等教員の取扱いに関する規則に基づき、指導力不足と認定した2人に対して、指導力向上に向けた研修を実施した。

(コ) 教員の勤務負担軽減に関する調査研究 ㊦

学校における教職員の勤務負担を軽減し、教員が子どもと向き合う時間を確保するために、「教員の勤務負担軽減に関する調査研究委員会」を設置し、調査研究を行った。平成20年度は、県内の全ての公立学校における会議や校務分掌等の見直しに関する取組を調査し、各学校における取組を進める上で参考となる事例等をまとめた冊子を作成し配付した。

ウ 教職員の確保と適正配置

(ア) 公立小・中学校教職員定数

公立小・中学校の教職員定数は、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律に基づき算定されたものである。平成20年度の教職員数（標準法定数）は、次表のとおりである。

区 分	校 長	教 員	養 護 教 員	事 務 職 員	学校栄養職員	計
小 学 校	416人	6,010人	435人	435人	134人	7,430人
中 学 校	163人	3,470人	171人	178人	56人	4,038人

(イ) 特別支援学校教職員定数

特別支援学校の教職員定数は、学校増に伴い、59人の増となった。

区 分	校 長	教 員	養護教員	事務職員	学校栄養職員	実習助手	計
特別支援学校	12人	(84) 人 1,101	21人	48人	12人	28人	(84) 人 1,222

() は寄宿舎指導員数で内数

(ウ) 公立定時制高等学校教職員定数

平成20年度は、生徒数や学級数にほとんど増減がなく、教職員定数は4人の増となった。

生 徒 数	教 職 員 数			計
	教 員	実 習 助 手	事 務 職 員	
2,190人	258人	1人	4人	263人

(エ) 県立全日制高等学校教職員定数

平成20年度は、県立全日制高等学校生徒数の減少に伴う学級減のため、教職員定数は23人の減となった。

生 徒 数	教 職 員 数			計
	教 員	実 習 助 手	事 務 職 員	
36,642人	2,771人	253人	240人	3,264人

(オ) 単県教職員の確保

へき地小規模校について、変則複式学級及び単複繰り返し学級で指導困難な学校に対して特別に教員を配置するとともに、大規模な中学校第1学年の学級編制の弾力化を実施するなど、次表のような単県施策による教職員定数の確保を行い、教育水準の向上を図った。

区分	過疎・へき地対策	指導対策	寄宿舎対策	病休代員	学級編制	合計
人数	44人	69人	8人	3人	34人	158人

(カ) 教職員の適正配置

ア) 教員採用等の在り方に関する検討委員会の設置

県民から信頼される採用選考を目指して、外部の有識者等からなる「岡山県の教員採用等の在り方に関する検討委員会」を設置し、教員採用候補者選考試験や管理職選考審査の現状と課題の把握、今後の改善策等の検討を行った。

イ) 平成20年度末教職員人事異動

県下全ての教職員が使命感に燃え、市部・郡部・へき地等あらゆる地域の教育を分担するとともに、異なる地域・規模・校種等での幅広い豊かな経験を積むことによって、学校教育のより一層の充実が図られるよう努めた。

学校種ごとの異動状況は次表のとおりである。

区 分	退 職	転 任	新 採 用	計
小 学 校	256人	962人	180人	1,398人
中 学 校	100人	565人	81人	746人
高 等 学 校	101人	406人	40人	547人
特 別 支 援 学 校	34人	99人	42人	175人
計	491人	2,032人	343人	2,866人

ウ) 副校長等の新たな職の設置

校長のリーダーシップのもと、組織的・機動的な学校運営が行われるよう、学校の組織運営体制や指導体制の充実を図るため、平成20年度末の教職員人事異動において、新たな職として副校長、主幹教諭、指導教諭を設置した。

区 分	副校長	主幹教諭	指導教諭
小 学 校	0人	10人	16人
中 学 校	2人	10人	7人
高 等 学 校	5人	8人	10人
特 別 支 援 学 校	12人	2人	2人
計	19人	30人	35人

エ 健康と福利厚生

(ア) 教職員の健康管理対策

検 査 事 項		対 象	受 診 者 数	
定 期 健 康 診 断	呼吸器検診	X線直接撮影	全員	5,608人
	消化器検診	X線間接撮影	35歳以上	4,035人
	循 環 器 検 診	血 圧	全員	5,549人
		尿	全員	5,160人
		血液検査(貧血・肝機能・血中脂質・血糖)	35歳、40歳以上、新採用	4,054人
		心電図検査	35歳、40歳以上、新採用	4,044人
肺がん検診	喀痰検査	40歳以上の調査抽出	512人	
大腸がん検診	免疫的便潜血反応	40歳以上	906人	
短期人間ドック	呼吸器・消化器・循環器検診等	45歳、50歳、60歳	1,113人	
V D T健康診断	眼科学的検査等	調査抽出	75人	

(イ) 教職員のメンタルヘルス対策

事業名	内 容	参加人数等
岡山県教職員復職支援システム	精神疾患等で休職した教職員の円滑な職場復帰と再発防止のため、休職者や所属長に対して休職中から復職後まで継続的かつ段階的な支援を行った。 ・岡山県教職員健康診断審査委員会「メンタルヘルス部会」の開催 ・復職プログラムの実施	実施者47人
管理職メンタルヘルス相談	専門家による、管理職のための職場のメンタルヘルスに関する面接相談を実施した。 (相談機関：岡山大学大学院教育学研究科)	2件
心とからだの健康相談	福利課技師（保健師）による職場や家庭生活における心身の諸問題等に関する相談を実施した。	面接 141件 電話 74件 電子メール 3件
管理職メンタルヘルス研修会（※）	メンタルヘルスに対する、必要な知識・技術の習得を支援するため、県教育委員会事務局、教育機関及び公立学校の管理職を対象に年2回実施した。	36人
同僚性を形成するための研修講座（※）	互いに支え合う学校風土をつくり、よりよい教育活動を展開するために、教職員の「同僚性」を形成するための実践力を養うことをねらいとして、公立学校教職員を対象に3日間実施した。	71人

※平成19年度から岡山県総合教育センターで実施

(ウ) 安全衛生管理体制の充実

県立学校等の所属長（58所属）を対象に、教職員の健康管理等についての情報提供を行い、職場の安全衛生管理体制の充実を支援した。

(エ) 喫煙対策

「健康増進法」や「健康おかやま21」の趣旨を踏まえ、学校が児童生徒の健康被害の防止や喫煙防止教育を推進している教育機関としての社会的役割を一層充実するために、平成20年度から県立学校の敷地内禁煙を実施した。

(オ) 教職員住宅の管理

既設住宅405戸の維持管理・補修を行うとともに、築後20年以上経過した住宅の一部について、内部大改修を実施した。

(カ) 互助組合の助成

教職員の福利増進を目的として、岡山県職員の共済制度に関する条例に基づく助成を行った。助成対象の事業は次のとおりである。

区 分	事業名	参加人数等
検 診	日帰りドック	4,851人
	歯科検診	71人
健康づくり	リラクゼーションセミナー	52人
	メディカルヘルスチェック助成	117人
相 談	法律相談	6件
	福利厚生相談	344件
生涯設計	ライフプランセミナー	109人
	退職準備セミナー	764人
技能習得	介護講座	162人

オ 施設・設備等の整備・充実

(ア) 県立学校の施設整備

岡山朝日高校普通教室棟及び合併教室棟解体工事を行うとともに、耐震診断の結果、危険度の高い施設の耐震補強工事を行い、併せて経年による建物の損耗、機能低下に対応し、概ね20年以上経過の建物を全面的に大規模改造することとして、岡山大安寺高校、岡山御津高校、新見高校等の整備を行った。

また、特別支援学校整備では平成21年度開校の岡山瀬戸高等支援学校の校舎整備、誕生寺養護学校の小学部棟建設工事及び管理棟の大規模改造工事等を行った。

事 項 名	決算額 (円)	備 考
県立高等学校校舎等整備費	2,567,213,956	校舎解体 岡山朝日高 アスベスト対策 (別表へ詳細掲載) 校舎等耐震補強及び大規模改造 (16校) 岡山操山高、岡山大安寺高 岡山工業高、東岡山工業高 岡山御津高、水島工業高、津山工業高 津山東高、笠岡高、笠岡商業高 井原高、高梁城南高、新見高 林野高、和気閑谷高、岡山盲 耐震診断 (22校35棟) 岡山大安寺高、岡山芳泉高 岡山一宮高、岡山南高、岡山御津高 倉敷南高、倉敷古城池高、玉島高 倉敷鷺羽高、倉敷商業高、津山工業高 玉野高、笠岡工業高、井原高、高梁高 高梁城南高、新見高、勝山高、久世高 和気閑谷高、勝間田高、岡山養護 実施設計 (13校) 岡山操山高、岡山大安寺高 岡山芳泉高、岡山工業高 東岡山工業高、岡山東商業高 倉敷青陵高、倉敷工業高、津山工業高 高梁高、高梁城南高、鴨方高 勝間田高 学校緑化 岡山南養護 県産材活用UD 岡山南高、井原高 エコ広場UD 倉敷天城高、矢掛高
産業教育施設整備費	116,053,300	高松農業高、興陽高、瀬戸南高
県立高等学校建物管理費	441,424,490	高等学校建物修繕等、教職員住宅改修 アスベスト対策 (別表へ詳細掲載)
特別支援学校校舎整備費	755,509,805	新築・耐震補強及び大規模改造 誕生寺養護 校舎整備 岡山瀬戸高等支援 岡山豊 (岡山東養護分教室整備) 耐震診断 岡山瀬戸高等支援 (1校3棟)
計	3,880,201,551	

(イ) アスベスト対策事業

吹付アスベスト等使用実態調査の追加調査の結果、吹付アスベストの使用が判明した施設を含め6施設の対策工事を行った。

事 項 名	決算額 (円)	備 考
県立高等学校校舎等整備費	解体費用に含む 24,486,000	岡山朝日高 岡山大安寺高、笠岡工業高
県立高等学校建物管理費	9,702,000	笠岡・笠岡工業・笠岡商業・鴨方高校女子寮 総社高、林野高
計	34,188,000	

(ウ) 市町村立学校校舎、屋内運動場等の整備指導 (国)

公立小中学校施設整備については、児童生徒急増期に建築した校舎等の老朽化、近年の少子化に伴う児童生徒数の減少や市町村合併などによる学校統廃合の進展により生じた廃校施設等の有効活用、また、多様な学習活動等に対応した施設づくりなど多くの課題を抱えている。

中でも特に、学校施設は災害時に地域住民の応急避難場所としての役割をも果たすことから、早急に耐震性能の向上を図っていくことが重要であるため、文部科学省が示した学校施設耐震化推進指針に基づき、校舎等の耐震診断結果の公表や耐震化計画の策定について、市町村に対し指導を行った。

市町村が新增改築を行うに当たっては、教育内容・教育方法等の多様化に対応したものとするとともに、バリアフリー化や教室内の空気汚染対策にも配慮するよう教育環境の質的向上を図るよう技術的・事務的な指導を行った。

また、全国の学校施設等における吹付アスベスト等使用実態調査が実施され、飛散の恐れ等のある施設については、除去等の飛散防止措置など施設の安全性確保が図られるよう指導を行った。

事業名	市町村数	学校(園)数	国庫補助額(千円)
新增改築事業	6市1町	幼1、小4、中3	914,447
大規模改造事業	5市1町	小8、中1	273,004
うちアスベスト対策	1市	小3	11,926
地震補強事業	8市3町	小27、中13	784,757
合計	11市4町	幼1、小33、中16	1,972,208

※合計欄は実数(市町村数、学校(園)数)

(エ) 教育設備の整備拡充

教育指導の一層の充実、徹底を図るため、小・中・高・特別支援学校における設備の充実に努めた。

ア) 産業教育関係設備の充実と老朽設備の更新 (国)

産業教育振興法に基づき、一部国庫支出金の交付を受けて、次のとおり高等学校に産業教育関係設備を整備した。

区 分	県 立 学 校		
	学 校 数	整 備 額 (千 円)	
		事 業 費	う ち 国 庫
特 別 装 置	13	157,074	51,660

その他、基準設備の整備及び老朽設備の更新を行った。

1) 理科教育関係設備の充実促進 (国)

理科教育振興法等に基づく国庫支出金の交付を受けて、理科教育関係設備を次のとおり整備した。

区 分	県 立 学 校		市 町 村 立 学 校	
	学 校 数	整 備 額	学 校 数	整 備 額
理 科 設 備	21	43,503千円	166	47,955千円
算 数 ・ 数 学 設 備	—	—	15	1,686千円
計	21	43,503千円	181	49,641千円

(オ) 就学・進学奨励制度

ア) 高等学校奨学金事業

勉学意欲がありながら経済的理由により修学困難な高校生に対し、奨学金を次のとおり貸与した。

区 分	国 公 立				私 立				合 計	
	自 宅		自 宅 外		自 宅		自 宅 外		人 員	金 額
	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額		
前年度からの継続	人 85	千円 18,072	人 6	千円 1,656	人 184	千円 65,058	人 4	千円 1,680	人 279	千円 86,466
平成20年度採用	60	12,852	—	—	113	39,960	3	1,260	176	54,072
計	145	30,924	6	1,656	297	105,018	7	2,940	455	140,538

※公立高校から私立高校への転学者重複1名を含む

イ) 育英事業

ア) 県補助金事業によるもの

本県における育英事業は、財団法人岡山県育英会により実施されているが、奨学金の貸与状況は次のとおりである。(平成19年度から大学・短期大学の新規採用廃止)

区 分	高 等 学 校		短 期 大 学		大 学		計	
	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額
前年度からの継続	人 69	千円 14,778	人 1	千円 540	人 182	千円 106,380	人 252	千円 121,698
平成20年度採用	33	7,128	—	—	—	—	33	7,128
計	102	21,906	1	540	182	106,380	285	128,826

イ) 旧日本育英会業務移管に伴う予算措置によるもの (国)

旧日本育英会高等学校奨学金業務移管に伴う国からの交付金を受け、財団法人岡山県育英会により高等学校奨学貸付事業を実施しているが、奨学金の貸与状況は次のとおりである。

区 分	高 等 学 校 等								合 計	
	国 公 立				私 立					
	自 宅		自 宅 外		自 宅		自 宅 外			
	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額		
前年度からの継続	人 651	千円 140,310	人 51	千円 14,076	人 345	千円 123,420	人 49	千円 20,580	人 1,096	千円 298,386
平成20年度採用	407	87,246	32	8,832	215	76,590	27	11,340	681	184,008
計	1,058	227,556	83	22,908	560	200,010	76	31,920	1,777	482,394

ウ) 特別支援学校就学奨励費補助制度の充実 (国)

特別支援学校に就学する幼児児童生徒に対し、保護者の属する世帯の収入額と需要額の割合に応じ、3段階に分けて保護者に就学奨励費を支給した。

- エ) 定時制・通信制高等学校修学奨励制度の充実 (国)
働きながら学ぶ高等学校の定時制課程及び通信制課程に在学する生徒の修学促進を図るため、修学奨励費を次のとおり貸与した。

区 分		学 校 数	貸 与 者 数	貸 与 額
定 時 制 課 程	公 立	7	15人	2,520千円
	私 立	—	—	—
	計	7	15人	2,520千円
通 信 制 課 程	公 立	—	—	—
	私 立	—	—	—
	計	—	—	—
合 計		7	15人	2,520千円

区 分	1 年	2 年	3 年	4 年
私 立 定 時 制	29,000円	29,000円	29,000円	29,000円
そ の 他	14,000円	14,000円	14,000円	14,000円

- カ) 幼稚園就園奨励費補助制度の充実促進 (国)
国庫補助金の交付を受けて21市町村が実施した幼稚園就園奨励事業の概要は次のとおりである。

区 分	補助対象園児数	事 業 費	国 庫 補 助 金 額
公 立 幼 稚 園	480 人	11,041 千円	2,940 千円
私 立 幼 稚 園	3,158 人	228,953 千円	60,956 千円
計	3,638 人	239,994 千円	63,896 千円

(6) 体育・健康教育の充実

施策の目標

体育・スポーツ活動の充実や食育の推進等を通じて健やかな体を育成するとともに、地域と連携しながら学校安全の確保に努める。

【教育委員会での主な意見】

[平成20年5月9日(金)]

○食育から広げる生活リズム向上プランについて

- ・早ね早おき朝ごはんは、生活リズムが大事なので、さらにレイアウトを強調すること。

[平成21年1月23日(金)]

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

- ・質問紙調査の中で土日の運動状況についているが、土日の過ごし方は多様であっていいと思うので、これとは別に調査する必要がある。
- ・県単位の比較だけでなく、今後、県内の状況も分析するべきだ。
- ・参加校が少ないので、早い段階から予定してもらえよう促すべきだ。

[平成21年2月20日(金)]

○学校給食における地場産物の活用について

- ・近くで採れた食材は、輸送費がかからないのでエコの面からもよい取組だ。
- ・子どもたちが、実際に生産現場を見に行くなど、食材の大切さを実感できたらさらによい。

【教育委員会での審議等を踏まえた施策等】

	H19	H20	増減
毎日朝食を食べている 子どもの割合(%)	81	84	3
小・中学校の給食における 県産農林水産物の使用割合(%)	41.0	44.7	3.7

○ 施策の概要

ア 体育・スポーツ活動の充実

(ア) 教員の指導力向上

1) 学習指導要領の徹底・充実のための研修会の開催

研修会名	実施日数	会場	参加数	研修内容
小・中・高等学校 体育担当者研修会	3日	県総合教育センター	605人	体育経営の在り方と指導上の諸課題

イ) 指導力向上のための講習会の開催

講習会名	実施日数	会場	参加数	講習内容	
体育実技講習会	小学校	延べ4日	県総合教育センター、吉備中央町立吉備高原小学校	165人	基本の運動、体づくり運動、ボール運動、陸上運動における学習指導要領の内容を踏まえた実技研修
	中・高等学校	延べ8日	備前市総合運動公園プール、岡山県美作ラグビー・サッカー場、桃太郎アリーナ	278人	ラグビー、サッカー、バドミントン、水泳における学習指導要領の趣旨を生かした効果的な学習指導の在り方について
武道指導者養成講習会	2日	岡山武道館	6人	柔道の基本動作 対人的技能とその指導法	
	延べ7日	岡山武道館	21人	剣道の基本動作 生徒の学習意欲を高める指導法	

(イ) 体づくりの推進

- ア) 学校における体づくり推進の基礎資料とするため「学校体育指導資料第45号」を作成し、関係機関・学校に配付した。
- イ) 県下の公立小・中・高等学校で新体力テストを実施し、A段階取得者を表彰（バッジの交付）した。

区分	新体力テスト A 段階 取得者		
	男子	女子	合計
小学校	10,750人	8,352人	19,102人
中学校	3,255人	6,790人	10,045人
高等学校	5,677人	3,524人	9,201人

- ウ) 子どもの体力の状況を把握・分析することにより、体力向上に係る施策の成果と課題の検証と改善を図るため「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を実施した。
- エ) 児童生徒の体力向上に向けて、これからの学校における体育及びスポーツ活動の在り方について、研究協議を行い、学校体育の一層の充実を図るため、岡山体づくり研究推進大会（134人参加）を開催した。
- オ) 小・中・高等学校体育連盟、学校体育研究連合会の組織の充実及び体づくりに関する研究内容などについて指導・助言を行った。
- カ) 園児・小学校児童を対象に、運動に親しむきっかけづくりと体力向上を目的として、「感動！おかやまっ子スポーツチャレンジ事業」を実施した。

事業名	会場（実施日数等）	参加人数	内容
わくわくスポーツデー事業	水島緑地福田公園（1日）	園児・児童と保護者 約1,000人	家族みんなでエアロビクス、ダブルタッチ教室、キッズラグビー教室、ニュースポーツ体験など
	岡山ドーム（1日）	園児・児童と保護者 約1,500人	みんなでチャレンジin岡山ドーム、一輪車教室、スナッグゴルフ教室、ニュースポーツ体験など
みんなでチャレンジランキング事業	各学校 平成20年6月1日～平成21年2月8日	児童 27,500人(延べ)	長なわとび、ドッジパスラリー、一輪車リレーなど様々な運動種目（34種目）にチャレンジし、記録の登録によりホームページ上で競い合う。

(ウ) スポーツ活動の活発化

- ア) 体育大会の充実
- イ) 第46回岡山県中学校総合体育大会（11,858人参加）と第47回岡山県高等学校総合体育大会（11,266人参加）を開催したのをはじめ、各種大会を共催し、中・高校生のスポーツ活動の

活発化、スポーツ精神の高揚、競技力の向上に努めた。


イ 小学校児童を対象として県内7地区で、水泳記録会（3,661人参加）及び陸上運動記録会（10,606人参加）を開催した。

ウ 中学生272人と高校生852人を全国中学校体育大会・全国高等学校総合体育大会・全国高等学校定時制通信制体育大会等へ派遣した。

エ 平成20年度中国高等学校選手権大会が中国五県で開催され、岡山県では以下の9競技種目を開催した。

陸上競技	(岡山市：1,184人)	バスケットボール	(岡山市：520人)
ハンドボール	(岡山市：435人)	ラグビー	(美作市：295人)
ソフトテニス	(岡山市：1,000人)	剣道	(岡山市：700人)
駅伝	(井原市：599人)	レスリング	(倉敷市：170人)
ボート	(岡山市：249人)		

イ) 運動部活動の振興

ア **新**地域スポーツ人材の活用実践支援事業 

小学校高学年における体育指導や、中学校の運動部活動の充実を図るため、次の各学校へ地域のスポーツ人材を派遣した。(小学校28校、中学校60校)

(小学校)

種目	学校名	種目	学校名	種目	学校名
陸上競技	岡山・甲浦 岡山・浦安 岡山・七区 倉敷・船穂 倉敷・玉島 津山・喬松 津山・高田 新見・上市 赤磐・石相 赤磐・笹岡 真庭・川東 真庭・上田	陸上競技	真庭・富原 和気・和気 奈義・奈義 美咲・柵原東	表現運動	倉敷・下津井東
		器械運動	倉敷・玉島 津山・清泉 真庭・檜邑 真庭・皆部 鏡野・富 備前・日生西 備前・日生東	スキー(アルペン)	真庭・川上 真庭・八束
				スキー(ノルディック)	真庭・川上
				スキー	鏡野・上斎原

(中学校)

種目	学校名	種目	学校名	種目	学校名
陸上競技	岡山・香和 岡山・岡山中央	サッカー	岡山・東山 岡山・香和 岡山・瀬戸 倉敷・南 倉敷・船穂 倉敷・多津美 倉敷・東 津山・津山東 瀬戸内・邑久 真庭・蒜山 勝央・勝央	ソフトボール	岡山・旭東 倉敷・琴浦 津山・久米 美作・作東 美咲・旭
体操競技	津山・加茂			卓球	総社・総社 勝央・勝央
バレーボール	岡山・岡北 岡山・瀬戸 岡山・石井 倉敷・真備東 津山・津山東 玉野・日比 赤磐・磐梨 浅口・寄島 浅口・金光 和気・和気	ソフトテニス	津山・津山西 瀬戸内・牛窓 真庭・久世	アーチェリー	備前・日生
バスケットボール	岡山・石井 倉敷・北 倉敷・船穂 赤磐・赤坂 真庭・勝山 美作・美作	バドミントン	笠岡・白石 総社・総社東	柔道	岡山・御津 岡山・瀬戸 倉敷・連島 津山・北陵 津山・鶴山 赤磐・磐梨 美咲・旭
		野球	津山・久米 備前・三石 瀬戸内・邑久 美作・作東	剣道	岡山・灘崎 岡山・福田 備前・吉永 瀬戸内・牛窓 美作・英田 鏡野・鏡野

イ スポーツエキスパート活用事業

高等学校におけるスポーツ活動の振興・充実を図るため、次の各学校へ民間の優秀な指導者を派遣した。(高等学校50部)

種目	学校名	種目	学校名	種目	学校名
新体操	津山東高 岡山芳泉高	サッカー	岡山朝日高 水島工業高 笠岡工業高 笠岡商業高 邑久高 高梁城南高	ボート	岡山操山高 岡山東商業高
バレーボール	倉敷天城高 津山工業高 蒜山高 倉敷南高 総社南高	バドミントン	倉敷南高	なぎなた	勝間田高
卓球	西大寺高 久世高	ソフトテニス	東岡山工業高 水島工業高 玉野高 笠岡高 新見高 倉敷古城池高	射撃	高松農業高
ラグビー	津山工業高 高松農業高 岡山一宮高	弓道	玉島商業高	軟式野球	瀬戸南高 勝間田高 高梁城南高

ウ 武道指導者派遣事業

中・高等学校における武道の振興・充実を図るため、次の各学校へ民間の優秀な指導者を派遣した。(中学校10校、高等学校5校)

(中学校)

(高等学校)

種目	学校名	種目	学校名	種目	学校名
剣道	岡山・福南 岡山・福田 備前・日生 赤磐・磐梨 倉敷・東陽	剣道 柔道	津山・中道 美作・英田 倉敷・倉敷第一 津山・鶴山 津山・津山東	弓道	岡山朝日高 玉島高 岡山工業高 倉敷工業高 水島工業高

エ 中・高等学校における運動部活動の望ましい在り方と、指導者の指導力の向上を図るため、4種目(ソフトボール・バレーボール・トレーニング・バスケットボール)について、延べ9日間にわたって運動部活動指導者研修会(延べ433人参加)を開催した。

オ 学校運動部活動活性化事業

優秀な専門的指導力を有する高等学校運動部を核として、近隣地域の中学校運動部と連携し、地域ごとに指導者や生徒の交流を促進させ、中・高等学校運動部活動の活性化と充実を図ることを目的とし、6校の運動部で合同練習会（年間6回程度）と交流戦フェスティバル（年間1回）を実施した。

学校名	種 目	交流戦フェスティバル		
		日時・場所	招待校（県外）	参加中学校数 全体参加人数
岡山工業高校	柔道	平成20年11月22日 岡山武道館	金沢東高校 八頭高校 萩高校	6校 155人
玉島高校	ソフトテニス	平成20年 9月20日 21日 玉島の森	徳山商工高校 萩商工高校	6校 179人
瀬戸南高校	ホッケー	平成20年11月1日 赤磐市 熊山運動公園	岐阜総合学園高校	2校 81人
倉敷工業高校	卓球	平成20年8月12日 13日 桃太郎アリーナ	滝川高校 報徳学園高校 出雲北陵高校 青谷高校 島根県選抜	44校 579人
倉敷商業高校	剣道	平成20年12月14日 倉敷商業高校	広島県盈進高校 米子北高校	16校 249人
東岡山工業高校	サッカー	平成20年11月23日 東岡山工業高校	滝川第二高校	3校 174人

カ 中・高等学校における地域連携武道指導実践事業

中・高等学校の体育の授業や運動部活動において、地域と連携した活動や教員の指導力向上のための取組を進め、学校を中心として地域全体で武道振興を図るため、津山市で事業を実施した。

イ 健康教育の充実

(ア) 県立学校児童生徒の健康診断の実施

児童生徒の健康診断として、結核、心臓、尿等の検診を行った。特に、心電図自動解析機により解析を行い、心臓疾患の管理、指導の充実を図った。

区分	検 査 事 項	対 象	受 診 者 数	
幼 児	結 核 検 診	問 診 調 査	小、中全員	1,417人
		X 線 撮 影	高1、高4全員	12,579人
児 童	心 臓 検 診	心 電 図 検 査	小1、中1、高1全員	13,292人
		心 音 図 検 査	小1、中1全員	439人
生	寄 生 虫 検 査	幼、小1、2、3全員	261人	
徒	尿 検 査	幼、小、中、高全員	38,376人	

(イ) 学校環境保全、健康管理指導

ア) 学校環境保全、健康管理指導の充実

学校環境衛生の充実、向上を図るため、関係機関・団体の協力を得て担当者の研修会を開催するとともに、保健教育担当者の資質向上のため、下表の研修会等を開催した。

また、県下全学校(園)を対象に、児童生徒等の健康状況及び各学校(園)の保健活動の状況を取りまとめた「学校保健概要」を作成・配付し、学校保健の向上を図った。

研修会名	開催日	会場	参加人数
岡山県学校保健研修会	平成21年1月22日	岡山県衛生会館	634人
第55回岡山県学校保健研究大会	平成20年8月7日	備前市民センター等	780人
養護教諭研修会	平成20年12月3日 平成20年12月17日	県総合教育センター	654人

イ) 大気汚染対策等

大気汚染地区の生徒・教職員の健康管理のため、「岡山県大気汚染防止夏期対策要綱」に基づき、大気汚染情報等の発令時には関係地域の県立学校への通報連絡を行った。

(ウ) 学校安全の充実

ア) 交通安全対策の強化

児童生徒等の交通事故防止対策及び交通安全教育の強化、充実を図るため、次の事業を行った。

ア) 学校健康教育講習会

学校における健康教育に関する指導体制の充実を図るため、各学校の学校保健・安全担当者等を対象に講習会を開催し、指導者の資質向上に努めた。

イ) 高校生の交通安全対策

岡山県高等学校交通安全教育推進連絡協議会並びにブロック協議会(7ブロック)で地域の実情に即した交通安全対策を協議し、推進した。

区 分		幼 児	小学生	中学生	高校生	計
20年(A)	死 者	2人	0人	0人	0人	2人
	傷 者	378人	713人	552人	855人	2,498人
19年(B)	死 者	1人	1人	1人	2人	5人
	傷 者	461人	807人	575人	951人	2,794人
前 年 比 (A - B)	死 者	1人	△1人	△1人	△2人	△3人
	傷 者	△83人	△94人	△23人	△96人	△296人

イ) 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業 (国)

ア) 地域ぐるみでの学校安全に関する先進的取組を実施する地域を指定し、区域内における実践的な取組を推進した。(モデル地域:真庭市)

イ) 地域学校安全指導員(スクールガード・リーダー)を各警察署単位に配置し、警察官OBと退職教員の協力を得て、各学校の巡回指導と評価を実施した。(スクールガード・リーダー55人委嘱)

ロ) 防犯教育推進事業

実践的な安全教育・安全管理を推進することができるよう、防犯教室等の指導者に対して防犯教室推進講習会を開催し、講義や実習、実地訓練を行い、学校安全を推進した。

ア) 児童生徒等の危険予測・危険回避能力の育成に有効な「地域安全マップ」の作成を実習するとともに、学校や登下校時の不審者対策についての講義を行った。

イ) 教職員や児童生徒等の安全対応能力の向上を図る「防犯教室」の開催を推進するため、学校への不審者侵入防止の体制整備・対応方法等の講義並びに実地訓練を行った。

(エ) **新**子どもの健康を守る地域専門家総合連携事業 (国)

児童生徒が学校生活を心身ともに健康で安全に送ることができるよう、児童生徒の様々な健康問題に対応できる専門家や専門医を地域研修会等に派遣し、健康相談活動や健康教育の充実に努めた。また、モデル地域を指定し、健康課題等の解決に向けた取組を実践した。

(オ) **新**スクールヘルスリーダー派遣事業 (国)

退職養護教諭をスクールヘルスリーダーとして委嘱し、経験の浅い養護教諭を配置する学校及び養護教諭未配置校へ派遣し、校内研修や個別対応が求められる子どもへの対応方法等についての指導等を実施した。

(カ) 性に関する教育普及推進事業 (国)

平成20年1月に作成した指導資料「性に関する教育の手引」の有効な活用方法について、県内4カ所で開催した研修会を開催し、学校における児童生徒への効果的な性に関する教育の指導の充実に努めた。

(キ) 薬物乱用防止教室推進事業

薬物乱用防止教室講習会を開催し、薬物乱用防止教育の効果的な進め方について研修し、指導者の資質向上を図った。

(ク) 学校給食の充実

ア) 食育から広げる生活リズム向上プラン

平成19・20年度において、子ども達の生活リズムの確立を目指し、家庭や地域の連携を図るため、モデル地域（井原市・高梁市・赤磐市・美作市・奈義町・和気町）を指定し、食育を中心とした子どもの生活リズム向上のための実践活動等の調査研究を実施し、実践報告書にまとめ、関係各所への普及を図った。また、岡山県内全小中学生の保護者対象にリーフレットを配付するとともに、フォーラムの開催（参加人数300人）などを行った。

イ) 学校給食の管理及び指導の充実向上のための研修会等

児童生徒の望ましい食習慣と好ましい人間関係を育成するなど、教育の一環としての学校給食の一層の充実を図る観点から、給食指導、衛生管理等についての各種研修会を開催し、教職員の指導力の向上に努めた。

ウ) **新**子どもの健康を育む総合食育推進事業

学校における食育の充実を図るため、推進地域（津山市、浅口市）を指定し、栄養教諭が中核となって、学校・家庭・地域の団体（PTA、生産者団体、流通業者、栄養士会等）と連携・協力しながら、食育推進のための実践的な取組を行った。

エ) 学校給食施設設備の整備促進 (国)

学校給食施設設備について、次のとおり整備を図った。

区 分	学 校 数 等					補 助 対 象 事 業 費 (千円)	左 の う ち 国 庫 補 助 額 (千円)
	小 学 校	中 学 校	定 時 制 高 等 学 校 特 別 支 援 学 校	共 同 調 理 場	計		
施 設 整 備	1	0	0	0	1	42,452	32,941

カ) 食中毒対策

腸管出血性大腸菌O157やノロウイルスなどによる食中毒の防止対策を徹底するため、講習会等を開催した。また、県下全調理場の定期点検を実施し、衛生管理の徹底に努めた。

か) 米飯給食の推進と食事内容の充実向上

食事内容の充実と児童生徒の栄養に配慮した米飯の正しい食習慣を身に付けさせることを目的に、週3回以上の米飯給食の実施を促進した。

区 分	総 数	完 全 給食校 (A)	米飯給食 実施校 (B)	左の内訳（実施回数別）			実 施 率 (%) $\frac{(B)}{(A)}$	備 考 (%) $\frac{(C+D)}{(B)}$		
				週 2 回	週2.5回 (C)	週 3 回 以上(D)				
H 19 ・ 5 ・ 1	小学校	校	431	425	425	0	2	423	100.0	100.0
		人	111,424	111,424	111,424	0	766	110,658	100.0	100.0
	中学校	校	165	155	155	0	1	154	100.0	100.0
		人	53,823	49,868	49,868	0	452	49,416	100.0	100.0
	計	校	596	580	580	0	3	577	100.0	100.0
		人	165,247	161,292	161,292	0	1,218	160,074	100.0	100.0
H 20 ・ 5 ・ 1	小学校	校	428	418	418	0	0	418	100.0	100.0
		人	111,583	111,220	111,220	0	0	111,220	100.0	100.0
	中学校	校	165	155	155	0	0	155	100.0	100.0
		人	53,407	49,503	49,503	0	0	49,503	100.0	100.0
	計	校	593	573	573	0	0	573	100.0	100.0
		人	164,990	160,723	160,723	0	0	160,723	100.0	100.0

(ケ) **新**学校保健・安全・給食管理の手引の作成

健康診断の実施内容や学校環境衛生基準の変更、学校安全に関わる内容の改正・充実などにより、学校保健安全法が施行されたこと、また、食育の推進等から学校給食法の改正がなされたため、保健・安全管理の手引(H10.3)を改訂し、「学校保健・安全・給食管理の手引」を作成し、県内の学校園等に配布した。

(7) 人権教育の推進

施策の目標

学校の教育活動全体を通じて人権尊重の理念について理解を促し、一人ひとりを大切に
にする教育を計画的に推進する。

【教育委員会での主な意見】

[平成20年7月4日(金)]

○「インターネットに関する保護者向けリーフレット」について(再掲)

- ・携帯電話は人の心を傷付ける道具にもなるという事実を理解してもらうための工夫が必要だ。
- ・親としては長時間電話や学力低下に関心があると思われるが、携帯電話の危険性の方が重要だ。
- ・イラストで親が携帯電話から電話とGPSを想像しているのに対し、子どもは親とは違うことを考えている点はよく考えて作られている。

[平成21年2月20日(金)]

○人権教育推進状況報告書のまとめについて

- ・犯罪被害者などの人権については、最近、軽視されていると感じるが、守っていかないと
いけない。裁判員制度の開始も控えており、特に、犯罪被害者の子どもたちの人権には注意が
必要だ。

【教育委員会での審議等を踏まえた施策等】(再掲)

○学校等あて通知「児童生徒が利用する携帯電話等をめぐる問題への取組の徹底について」

(平成20年7月)

- 「携帯電話の利用に関する研修資料」等をホームページに掲載(平成20年8月)
- 「子ども向け学習教材」をホームページに掲載(平成20年12月)
- 学校等あて通知「児童生徒の携帯電話の利用に関する指導指針」(平成21年3月)
- 保護者へのアピール及び携帯電話事業者4社への要請(平成21年3月)

○ 施策の概要

ア 人権教育の総合的な推進

(ア) 人権教育推進委員会 「岡山県人権教育推進プラン」に基づく人権教育の推進についての審議

イ 研究推進校園の指定

(ア) 人権教育開発事業(文部科学省指定)

人権意識を培うための学校教育の在り方についての研究を行い、指導方法等の改善及び充実に
向けた実践を県下に広めた。(2校)

(イ) 人権教育研究推進校指定事業

高等学校等における人権教育の推進上の課題について研究し、その教育実践の発表を通して県
下に広めた。(4校)

ウ 教職員等の研修

講義、実践発表等を行い、人権教育推進上の諸課題について研究協議し、資質・指導力の向上を図った。

(ア) 市町村教育委員会教育長等人権教育研修会	(1会場)	50人)
(イ) 就学前人権教育研修会	(1会場)	75人)
(ウ) 小・中学校管理職人権教育研修会	(2会場)	370人)
(エ) 小・中学校人権教育担当者研修会	(4会場)	651人)
(オ) 高等学校等管理職人権教育研修会	(1会場)	103人)
(カ) 高等学校等人権教育担当者研修会	(3会場)	225人)
(キ) 人権教育交流体験研修会	(5会場)	119人)
(ク) 事務職員等人権教育研修会	(1会場)	65人)

エ 調査事業・指導資料等整備

(ア) 人権教育活動調査

人権教育を総合的に推進するための基礎的な資料とするため、市町村及び学校における人権教育推進の実情や取組状況を把握した。

(イ) 人権教育指導資料作成・配付

児童生徒が、人権課題について学習意欲を高めることができる指導資料（「人権学習ワークシート集（下）」）を5,000部作成・配付した。

(ウ) 保護者向けリーフレット作成・配付

携帯電話等による問題に取り組むためのリーフレット（「考えよう！子どもとケータイ」）を321,000部作成・配付した。

オ 「人権の世紀21おかやま」推進事業

(ア) 就学前人権教育推進事業

市町村が実施する就学前における人権教育にかかわる事業に要する経費の一部を補助した。
(実施市町村数：6市町)

(イ) 子どものエンパワーメント育成事業

市町村が、暴力・虐待等の人権侵害から子どもが自分の身を守るための力の養成を目指して、NPO法人等と連携して行う、人権教育にかかわる事業に要する経費の一部を補助した。
(実施市町村数：6市町)

カ 学校・地域社会の連携

(ア) 人権教育総合推進事業

人権教育の総合的な推進の在り方についての研究を行い、地域ぐるみで進める人権教育の実践を県下に広めた。(13校園)

(イ) 人権教育講座「ワークショップのすすめ」

ワークショップの手法を理解したり、指導者として必要な概念・スキルを獲得して、学校や職場、地域での人権教育の一層の充実を図るため、講座を開催した。(4会場 193人)

「学校教育の充実」施策に関する成果指標（「夢づくり協働指標」から）

○学校生活に満足している割合

[出典：高校生活に関する意識調査]

現況値 (H18.5)	目標値 (H23.5)	実 績 値						備考
		H18(H18.5)	H19(H19.5)	H20(H20.5)	H21	H22	H23	
79	80	79	79	81				増

(単位：%)

○中高一貫教育・総合学科等の新しい形態の学校数

現況値 (H18.4)	目標値 (H23.4)	実 績 値						備考
		H18(H18.4)	H19(H19.4)	H20(H20.4)	H21	H22	H23	
24	29	24	27	27				横ばい

(単位：校)

○県立学校の授業等を支援している外部人材の数

[出典：社会人講師活用状況調査]

現況値 (H18.3)	目標値 (H24.3)	実 績 値						備考
		H18(H19.3)	H19(H20.3)	H20(H21.3)	H21	H22	H23	
1,548	1,650	1,747	1,777	1,963				増

(単位：人)

○特別支援学校教諭の専門免許取得率

[出典：文部科学省調査]

現況値 (H17.5)	目標値 (H24.3)	実 績 値						備考
		H18(H18.5)	H19(H19.5)	H20(H20.5)	H21	H22	H23	
52.1	60	57.0	66.6	66.8				増

(単位：%)

○小・中学校の給食における県産農林水産物の使用割合

[出典：文部科学省調査]

現況値 (H18.6)	目標値 (H23)	実 績 値						備考
		H18(H18.11)	H19(H19.6・11)	H20(H20.6・11)	H21	H22	H23	
34.0	40.0	36.0	41.0	44.7				増

(単位：%)

○県立学校の耐震化

[出典：文部科学省調査]

現況値 (H18.3)	目標値 (H24.3)	実 績 値						備考
		H18(H19.3)	H19(H20.3)	H20(H21.3)	H21	H22	H23	
48.2	65	51.4	55.4	58.4				増

(単位：%)

4 伝統文化の振興

(1) 文化財の保存と活用

施策の目標

貴重な文化遺産の適切な保護・保存を進めるとともに、文化財の公開や史跡等の整備による活用を推進し、文化財への理解と関心を高める。

【教育委員会での主な意見】

[平成20年10月10日(金)]

○世界遺産暫定一覧表への追加記載候補の調査・審議結果について

「資産名称：近世岡山の文化・土木遺産群－岡山藩郡代津田永忠の事績－」

- ・旧閑谷学校は、世界史的にも江戸時代の庶民の学校は優れていたという観点から、近世の教育資産ということで、岡山県内だけでなく他県の施設と合わせて今後も研究を進めてほしい。

【教育委員会での審議等を踏まえた施策等】

○「近世の教育資産に係る会議」（3県3市合同会議）の開催（平成21年2月18日 水戸市）

平成21年度以降、備前市と合同研究会を開催し、調査・研究を進めるとともに、茨城・栃木両県及び所在する水戸、足利両市と共同し、暫定リスト入りを目指して粘り強い取組を進める。

「近世の教育資産」

名称	創立時期	管理者	所在地
閑谷学校	江戸(近世)	岡山県	備前市
弘道館	江戸(近世)	茨城県	水戸市
足利学校	鎌倉(中世)	足利市	足利市

○ 施策の概要

ア 文化財の保存

(ア) 文化財の調査

ア) 文化財保護審議会

県指定文化財候補物件の調査・審議・答申

イ) 文化財の指定

ア 国指定重要文化財・記念物

種別	名称	指定年月日
重要文化財	木造観音菩薩立像<岡山市>	平成20年7月10日
史跡	備前陶器窯跡 伊部南大窯跡 伊部西大窯跡 伊部北大窯跡 <備前市>	平成21年2月12日 追加指定 名称変更

イ 県指定重要文化財・記念物

種別	名称	指定年月日
建造物	本源寺霊屋、表門及び津山藩主森家一門墓 附 参道、石灯笼〔二基〕<津山市>	平成21年3月10日
建造物	宗形神社鳥居<赤磐市>	〃
史跡	勝負砂古墳<倉敷市>	〃

ウ 登録有形文化財（建造物）

名 称	数量	登録年月日
J R因美線美作滝尾駅駅舎<津山市>	1 棟	平成20年10月23日
妙教寺本堂、客殿及び庫裏、寒松軒ほか<岡山市>	33棟	平成21年 1 月 8 日
日本基督教団倉敷教会教会堂<倉敷市>	1 棟	〃
寶福寺方丈、玄関及び食堂、庫裏、宝蔵、中井戸、典座井戸<総社市>	4 棟・2 基	〃

ウ) 「岡山県の会陽の習俗」映像記録作成 (国)

平成14年度に国により「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択された「岡山県の会陽の習俗」について、学識経験者による映像記録作成委員会等の指導・助言のもと現在実施されている会陽の習俗のうち、6 寺社について撮影を行った。

(イ) 有形文化財等の管理と保存修理

国・県指定文化財の保存修理、史跡整備等を県事業及び補助事業として実施した。

指定別	事業主体	事業名	所在地	平成20年度の事業内容	事業年度
国指定	(宗) 吉備津神社	本殿及び拝殿 建造物保存修理	岡山市	本殿及び拝殿の修理	H16～20
	(宗) 中山神社	中山神社本殿 建造物保存修理	津山市	本殿の修理	H19～21
	(株) 三楽	旧大原家住宅 防災施設整備	倉敷市	防災施設整備	H20
	高梁市	旧片山家住宅 防災施設整備	高梁市	防災施設整備	H20～21
	(財) 林原美術館	絹本著色清明上河図	岡山市	保存修理	H20～21
	岡山市	岡山城跡 記念物保存修理	岡山市	本丸本段の保存修理、本丸下の段の確認調査	H4～
	岡山市	賞田廃寺跡 記念物保存修理	岡山市	植栽・広場・休養施設の整備	H13～21
	赤磐市	備前国分寺跡 記念物保存修理	赤磐市	史跡整備に係る発掘調査	H15～26
	津山市	津山城跡 記念物保存修理	津山市	天守曲輪東半整備	H18～29
	総社市	鬼城山 記念物保存修理	総社市	高石垣から西門の土塁復元工事	H13～22
	(宗) 本蓮寺	朝鮮通信使遺跡 牛窓本蓮寺境内記念物保存修理	瀬戸内市	客殿保存修理	H18～22
	倉敷市	倉敷市 倉敷川畔 伝統的建造物群保存地区保存修理	倉敷市	保存地区内民家等の修理	S54～
	高梁市	高梁市 吹屋 伝統的建造物群保存地区保存修理	高梁市	保存地区内民家等の修理	S52～
	岡山市	大廻小廻山城跡 史跡等買上げ	岡山市	史跡指定地等の買上げ	H18～27
県指定	(宗) 安住院	安住院多宝塔 保存修理	岡山市	屋根葺替等	H18～22
	(宗) 宝福寺	宝福寺仏殿屋根 保存修理	総社市	屋根葺替等	H18～20
	(宗) 三尾寺	三尾寺本堂 保存修理	新見市	屋根葺替等	H18～20
	(宗) 本久寺	本久寺本堂 保存修理	和気町	屋根葺替等	H18～23

その他、指定文化財管理、文化財保護管理指導、防災設備保守点検等を県事業及び補助事業として実施した。

(ウ) 銃砲刀剣類登録・美術刀剣類製作承認

銃砲刀剣類登録件数 479件、美術刀剣類製作承認件数 84件

(エ) 無形民俗文化財の継承と発信

ア) 中国・四国ブロック民俗芸能大会

平成20年11月9日に、倉敷市芸文館ホールにおいて、中四国地方に伝わる貴重な民俗芸能を公開した。笠岡市の「白石踊（国指定重要無形民俗文化財）」、津山市の「高田神社獅子舞（県指定重要無形民俗文化財）」等10団体が出演し、約800人の参加者があった。

イ) ふるさと文化再興事業の実施

地域の伝統文化の継承・発展を図るため、「伝統文化総合支援研究事業のマスタープラン」に基づき、民俗芸能等の伝承基盤の整備を図った。

(県内24団体：伝承者養成、用具等整備)

ウ) 伝統文化子ども教室事業の実施

(財)伝統文化活性化国民協会により、伝統文化を次世代に継承させるため、茶道、華道、日本舞踊、伝統音楽、郷土芸能などを計画的・継続的に体験・修得できる「伝統文化子ども教室」を実施した62団体への支援が行われた。

(オ) 埋蔵文化財の保護・保存

ア) 試掘・確認調査の実施

原因	遺跡名	所在地	実施期間	内容	摘要
岡山法務総合庁舎建設	南方遺跡	岡山市	H20.4～5	弥生時代遺構	確認調査
一般国道2号改築（笠岡バイパス）工事	横島大谷遺跡	笠岡市	H20.5	遺構・包含層未確認 須恵器他出土	確認調査
主要地方道北房井倉哲西線単県道路改築事業	遺跡名なし	新見市	H20.6	遺構・遺物未確認	確認調査
一般国道2号玉島笠岡道路建設	胎金寺跡	浅口市	H20.7	遺構・遺物未確認	確認調査
広域基幹河川改修事業（二級河川前川）	山津田遺跡	総社市	H20.11	弥生～古墳時代遺構 ・古墳	確認調査
一般国道374号（美作岡山道）道路改築	大河内遺跡ほか	勝央町	H20.11～12	大河内遺跡北端部 中世遺構・包含層	確認調査
一般県道服部停車場線道路改築	北溝手遺跡	総社市	H20.5～6	弥生時代～中世遺構	確認調査
都市計画道路大谷一宮線街路改築	遺跡名なし	津山市	H20.10～11	遺構・包含層確認	試掘調査

イ) 埋蔵文化財緊急調査、報告書作成のための資料整理

原因	遺跡名	所在地	実施期間	内容	摘要
独立行政法人国立病院機構岡山医療センター宿舎整備工事	伊福定国前遺跡	岡山市	H20.4～8 H20.9～H21.3	弥生時代～中世集落 ・水田跡	発掘調査 整理
都市計画道路竹田升田線街路改築	中島遺跡 宮南遺跡 国長遺跡 天神河原遺跡	岡山市	H20.4～H21.3	古代～近世集落・屋敷	整理
都市計画道路大谷一宮線街路改築	美作国府跡	津山市	H20.4～H21.1 H21.2～3	弥生～古墳時代集落 ・奈良～平安時代役所跡	発掘調査 整理
一般県道総社足守線公共特定交通安全施設等整備事業	延寿寺跡 倉ヶ市遺跡 下土田遺跡	岡山市	H20.4～H21.3	縄文時代～中世集落等	整理
一般県道吉備津松島線道路改築	中撫川遺跡	岡山市	H20.7～H21.3	弥生時代～中世集落 ・近世水田跡	整理
一般県道吉備津松島線道路改築	上東中嶋遺跡	倉敷市	H20.10～H21.2 H21.3	弥生時代集落・中世集落	発掘調査 整理
一般県道服部停車場線道路改築	南溝手遺跡 窪木遺跡	総社市	H20.4～6 H21.1～3	弥生時代～中世集落	発掘調査
鬼城山城内確認調査	史跡鬼城山	総社市	H20.7～12 H21.1～3	古代山城	確認調査 整理

ウ) 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書作成

報 告 書	摘 要
旭川放水路（百間川）改修工事に伴う発掘調査Ⅷ	百間川今谷遺跡 4 (217)
主要地方道御津佐伯線緊急地方道路整備事業（交通安全）に伴う発掘調査	八塚古墳群 (218)
主要地方道佐伯長船線（美作岡山道路）道路改築に伴う発掘調査 6	鍛冶屋D遺跡 (219)
一般県道吉備津松島線道路改築に伴う発掘調査Ⅲ	中撫川遺跡 3 (220)
都市計画道路竹田升田線街路改築に伴う発掘調査	中島遺跡ほか (221)
一般県道総社足守線公共特定交通安全施設等整備事業に伴う発掘調査	延寿寺跡ほか (222)
特別名勝岡山後楽園史跡等保存整備事業に伴う発掘調査	特別名勝・国指定史跡 岡山後楽園 (223)

() は報告書番号

イ 文化財の活用

(ア) 文化財の公開と普及・啓発

ア) 県立博物館における資料の公開・普及活動

平常展示、特別展示等を開催、また、博物館講座を実施した。

名 称	内 容	期 日	入館者数
平常展 春季展 夏季展 秋季展 冬季展 春季展	岡山の歴史と文化	平成20年3月14日～平成20年6月8日 平成20年6月10日～平成20年8月31日 平成20年10月18日～平成20年11月9日 平成20年11月14日～平成21年3月8日 平成21年3月13日～平成21年5月24日	15,193人
特別展	「日本刀－赤羽刀と備前の名刀－」	平成20年9月5日～平成20年10月13日	7,519人
	「岡山の庶民信仰－くらしの中の神・仏－」	平成21年2月6日～平成21年3月8日	4,693人
企画展	「茶道速水流と岡山」	平成20年4月10日～平成20年5月11日	5,616人
	「蘭草の芸術 錦菟薙」	平成20年7月31日～平成20年8月31日	3,654人
交流展	ミュージアムブリッジin おかやま・かがわ 「備讃における工芸のあゆみ－幕末・明治から現代へ－」	平成20年11月14日～平成20年12月14日	3,855人
博物館講座	岡山県の歴史と文化 「スタンダードコース」 「スペシャルコース」	平成20年6月3日～平成20年6月26日 平成20年7月6日～平成20年10月5日	参加者116人 参加者117人

イ) 吉備路風土記の丘等史跡の公開・普及活動

岡山県立自然公園条例に基づき、特別地域内の風致景観と遺跡を一体的に保存し、かつ公開を行った。

岡山県立吉備路郷土館では、常設展示以外に、吉備路とその周辺の歴史を中心とした企画展示を開催するとともに、歴史講座等を実施した。

名 称	内 容	期 日	入館者数
企画展	見えはじめた備中の国府	平成20年10月11日～平成20年11月24日	1,401人
吉備路郷土館講座	歴史講座、民俗学講座、 体験講座等	平成20年5月11日～平成21年3月14日	参加者 415人

ウ) 古代吉備文化財センターにおける普及啓発事業

ア) 埋蔵文化財発掘調査概要報告会

名 称	会 場	期 日	参加者数
大地からの便り2008	岡山県立博物館	平成20年8月23日	185人

イ) 埋蔵文化財発掘調査現地説明会

遺 跡 名	所 在 地	期 日	参加者数
美作国府跡	津山市	平成20年9月27日	150人

ウ) 考古学体験講座等

名 称	開 催 地	期 日	参加者数
むかし体験講座 前期1	岡山市	平成20年5月24日	28人
むかし体験講座 前期2	岡山市	平成20年6月7日	24人
むかし体験講座 後期	岡山市	平成20年10月11日	28人
いせき探検講座	岡山市	平成21年2月21日	61人
企画展関連講座 第1回	岡山市	平成20年6月15日	19人
企画展関連講座 第2回	岡山市	平成20年9月21日	17人
企画展関連講座 第3回	岡山市	平成20年12月14日	35人
企画展関連講座 第4回	岡山市	平成21年3月1日	34人
てんじ室探検隊 火おこし	岡山市	平成20年7月30日	19人
てんじ室探検隊 玉つくり	岡山市	平成20年8月20日	27人
てんじ室探検隊 クイズ	岡山市	平成20年7月19日～8月31日	55人

エ) 展示室企画展

名 称	内 容	期 日
企画展1	「鳥取自動車道関連遺跡群」	平成20年4月22日～7月21日
企画展2	「大河内遺跡・百間川原尾島遺跡ほか」	平成20年7月23日～10月19日
企画展3	「吉備の塩と鉄」	平成20年10月21日～平成21年1月18日
企画展4	「食生活の移り変わり」	平成21年1月20日～4月20日

オ) 鬼城山城内確認調査

名 称	会 場	期 日	参加者数
夏休み少年少女鬼ノ城教室	史跡鬼城山（総社市）	平成20年7月26日	32人
謎の鬼ノ城城内調査大公開Ⅰ	史跡鬼城山（総社市）	平成20年9月8日～14日	668人
謎の鬼ノ城城内調査大公開Ⅱ	史跡鬼城山（総社市）	平成20年12月1日～7日	488人
鬼ノ城うおーく	史跡鬼城山（総社市）	平成20年10月25日	19人

カ) 施設の見学 (7小学校 396人)

キ) 展示室入館者数 (3,506人)

(イ) 史跡等の整備

ア) 津島遺跡の史跡整備

津島遺跡史跡整備委員会等からの意見に基づき、掘立柱建物復元施設（高床倉庫）1棟、シンボルモニュメント1棟、水田跡表示施設、湿地跡表示施設、解説板・名称板の整備等を行った。

平成21年3月27日に津島遺跡史跡整備完成記念式を開催した。



津島やよい広場の竪穴住居と高床倉庫

イ) 津島遺跡普及・活用事業

ア) 津島やよい講座5「弥生の風景」平成20年9月20日

講座「2000年前の岡山市街ー津島遺跡の風景ー」ほか全3講座 参加者104人

イ) 歴史体験「津島遺跡！やよい体験」平成20年11月1日～11月2日

復元された竪穴住居及び掘立柱建物の公開

勾玉づくり、火おこし、もみすり、土器にさわる、

文様付け体験 参加者800人



弥生体験の「火おこし」

リ 津島遺跡整備報告書の刊行

平成16年度から平成20年度まで行った津島遺跡史跡等保存整備事業の報告書を300部刊行した。

(ウ) 吉備の国文化遺産活用事業

ア) みんなで楽しもう！民俗芸能

平成20年11月8日に倉敷市芸文館ホールで「おかやま子ども民俗芸能大会」を開催し、子どもたちによる民俗芸能の実演発表を行った。鴻八幡宮祭りばやし保存会による鴻八幡宮祭りばやし（しゃぎり）等5団体が出演し、約500人が参加した。



平川渡り拍子

<協働の成果>

各民俗芸能保存団体の指導者や地域のボランティア等の協力により、円滑な舞台進行ができた。

イ) 現地で体験！民俗芸能チャレンジ教室

平成20年8月25日、真庭市蒜山地区で、大宮踊に飾られる切り絵「シリゲ」づくりと、「蒜山銭太鼓」の体験教室を開催した。県内の小学生とその保護者等66人が参加した。

ウ) 「おかやまの文化財」刊行事業

平成19年度に、県内の国・県指定文化財等についての解説、アクセス方法、公開状況等、さらに子ども向けの解説などを掲載し、文化財の一層の活用を図ることを目的として作成したホームページ「おかやまの文化財」について、平成20年度は、平成19年度に掲載した建造物235件に加え、県内の国・県指定文化財等のうち、史跡・名勝・天然記念物・民俗文化財217件についての情報を掲載した。

エ) 吉備の国歴史探検ツアー

日頃県立博物館を利用する機会の少ない地域の子どものために、史跡や博物館を見学するバスツアーを実施し、自らの視点で文化財に親しむ楽しさを学んでもらった。笠岡発・新見発・鏡野発の3コースで、127人が参加した。

オ) ミュージアムブリッジinおかやま・かがわ

香川県との文化交流事業3年目に当たり、そのまとめとして、香川の漆芸・岡山の陶芸をはじめ両県を代表する工芸技術に焦点を当て、幕末・明治から現代に至る工芸のあゆみを紹介した。期間中に小学生を対象とした体験学習（ワークショップ）やボランティアによるガイドを実施した。平成20年11月14日から12月14日までの展示期間で、3,855人の入館者があった。

(エ) 「甦る！古代吉備の国～謎の鬼ノ城」調査事業

平成20年7月から12月にかけて、古代山城鬼城山（総社市）の城内ほぼ中心部8か所の確認調査を実施し、その様相を明らかにし、併せて調査を活用し県民の文化財保護意識の向上を図った。

(オ) 文化財情報の発信

ア) 文化財地図情報システムの公開

岡山県全域の文化財情報をインターネットで公開した。

（公開データ 国・県指定文化財情報：約700件、遺跡情報：約22,000件）

イ) 県立博物館デジタルミュージアムの公開

インターネット上で、資料の紹介、検索サービスを提供した。また、歴史クイズ・読み物のコーナーで岡山県の歴史と文化を学習できるコンテンツの充実を図った。

（公開データ 考古分野：637件、美術工芸分野：1,166件、文書分野：4,267件、民俗分野：6,261件）

ウ 文化財保護推進体制の整備

(ア) 市町村文化行政担当者会議

平成20年6月30日、岡山県庁で平成20年度市町村文化財行政担当者会議を実施した。県・国の事業の概要及び手続き等、実務中心の研修を行い、県下の文化財保護行政の実務の充実を図った。

(イ) 文化財研修会

平成20年6月27日、岡山県立図書館において、県開発担当部局担当者等を集め、研修会を実施した。

エ 世界文化遺産の登録推進

平成19年9月27日に世界遺産暫定一覧表追加記載資産候補として文化庁に提出した「近世岡山の文化・土木遺産群－岡山藩郡代津田永忠の事績－」について、平成20年9月26日、文化庁からの調査・審議結果が公表された。「近世岡山の文化・土木遺産群」は、その資産価値は高いと評価されたが、世界史的・国際的な観点からは、顕著な普遍的価値の証明が不十分とされた。しかし、提案資産のうち旧閑谷学校については、「近世の教育資産」という主題のもとに、詳細な調査・研究等を行い、他の同種資産と組み合わせることにより、将来的に世界遺産暫定一覧表に記載される可能性があると考えられた。

旧閑谷学校については、保存・管理の基本方針、方法、現状変更等の取扱基準などを定める保存管理計画の策定を平成20年度から2か年計画で進めており、平成20年度は学識経験者等からなる委員会を2回開催するとともに、特別史跡内の地形測量、資料収集、現地踏査などを実施した。

また、「近世岡山の文化・土木遺産群」構成資産等について、地域づくりとしての活用を図る目的などから、県教育委員会の監修のもと、備前県民局から「備前おかやま津田永忠の遺産をめぐる旅ガイドブック」が発行された。

「伝統文化の振興」施策に関する成果指標（「夢づくり協働指標」から）

○登録文化財の登録件数

現況値 (H18.7)	目標値 (H24.3)	実 績 値						備考
		H18(H19.3)	H19(H20.3)	H20(H21.3)	H21	H22	H23	
112	200	148	167	208				増

(単位：件)

Ⅲ 評価

1 岡山県教育委員会の活動に対する評価

平成20年度、岡山県教育委員会の委員は、地域の方々、市町村教育委員会・学校、公安委員会など幅広い分野の関係者と積極的に意見交換を行うとともに、各地域の教育活動を把握するために現地を訪問するなど、県民の教育ニーズを把握することに努め、年度末には、平成21年度の岡山県の教育行政の基本となる「岡山県教育行政重点施策」を決定しました。

平成20年度においては、とりわけ、岡山県教育振興基本計画（仮称）策定の着手、新設高等特別支援学校及び中等教育学校の設置決定、高等学校の再編整備、さらには教員採用等の在り方についての検討等について、複数日の協議などにより議論を尽くし、教育長を長とする教育委員会事務局に対し基本的な方向性を示しました。

また、その他の施策・事業等についても、事務局からの協議・報告に対し適切な指示を与えるなど、広範囲にわたる教育行政施策を着実に推進しました。

今後とも、計画的な学校・施設等への視察・訪問、意見交換等を実施し、これまで以上に現場の実態把握に努め、現在の岡山県の教育の現状を的確に踏まえつつ、新たな時代の岡山県を担う人材の育成に向けて、岡山県ならではの教育行政を推進します。

2 個別の施策・事業に対する評価

(1) 生涯学習の振興

県民フェスティバル開催事業「おかやま学びフェスタ2008」では、平成19年度に開催した第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」の成果を継承し、学びの成果や生涯学習によるまちづくり等に関する様々な参加型の発表・交流の機会を全県レベルで展開することにより、各種生涯学習実践団体等の活動の活性化を目指すとともに、生涯学習の一層の推進を図りました。その結果、官民の連携・協働による学習機会の充実、学習活動への参加や、人材育成、地域社会づくり等を推進することができました。今後は、多様化、高度化する県民の学習ニーズに応える仕組みや総合的な情報提供の一層の充実と学習成果を地域社会づくりに生かす具体的な仕組みや方策が課題です。

また、県民が1年間に公立図書館から借りた本の数は増加しており、県民の学習拠点としての県立図書館の役割は大きく、施策の目標はほぼ達成できたと考えています。今後は、これまでの役割に加え、地域課題の解決や地域の教育力向上に資するための情報提供サービスが求められており、特に、課題解決型サービス、地域支援サービス等の拡充が期待されています。

さらには、「まなびピア岡山2007」を通じて生まれた団体等のネットワークを一層拡充・発展させるため、生涯学習活動をサポートする「おかやま学びの輪」への加入を促進するとともに、加入団体相互の交流を図るなど、活動の活性化を進めていきます。また、岡山県生涯学習情報提供システム「ばるネット岡山」を積極的に周知し、講師・ボランティアへの登録者数の増加や活用促進を図ります。

(2) 家庭・地域社会の教育力の充実

子どもたちの健やかな成長を促すため、家庭教育に関する学習機会の提供や相談・支援体制の整備などに努めるなど家庭の教育力の充実を図りました。

社会全体で子どもをはぐくむ環境づくりとして、放課後、週末等に、地域の協力を得ながら子どもの体験・交流活動を支援する取組を進めるなど、地域社会の教育力の活性化にも努めました。平成20年度は、学校の余裕教室等に、安全で安心して活動できる活動拠点（放課後子ども教室）を県下161か所に開設し、放課後や週末における様々な体験活動や地域住民との交流を図るとともに、新たに、おおむね中学校区を単位として「学校支援地域本部」を12か所設置し、学校支援ボランティアの参画を得て地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進するなど、大きな成果を得ることができました。

今後、社会全体で子どもをはぐくむ環境づくりを推進するためには、各市町村の実情に合わせた計画・実施が必要ですが、各市町村にあっては実施計画の策定と、コーディネーターの積極的な配置が課題となっており、県教育委員会としても市町村教育委員会に積極的に働きかけてまいります。

さらに、学校教育と社会教育が一体となった地域ボランティア活動や子どもの読書活動の一層の推進を図るなど、学校・家庭・地域社会の連携を促進しました。

人権教育については、「岡山県人権教育推進プラン」等に基づき、人権問題についての理解と認識を深め、自らの課題として日常生活に生かせる人権感覚を身に付けるための教育・啓発を推進しました。

特に、市町村、民間団体等との協働により、交流体験研修やワークショップの手法等を取り入れながら、研修、講座等の充実を図りました。また、市町村等の受講者を対象に人権教育指導者講座を実施し、リーダーの養成を行うなど、人権教育の総合的・効果的な推進を図ることができました。

今後とも、各種情報提供や連絡調整、資料整備、指導者養成等により、引き続き市町村を支援してまいります。

（3）学校教育の充実

「確かな学力」と「豊かな心」の育成を重要な柱として、家庭・地域等との連携・協働を図りながら、様々な教育施策を総合的に推進してきました。また、平成19年4月に開所した県総合教育センターを中核として、学校の教育力や教職員の一層の資質向上を図るための研修や、多様なニーズに応じた学校への支援を積極的に行い、成果を上げることができました。

また、道徳教育の充実や体験活動を重視した教育の推進、いじめ・不登校問題などに取り組み、豊かな心の育成に努めました。

高等学校教育においては、多彩な才能をはぐくむ創意ある教育活動を展開するため、新しい観点に立った高等学校教育体制の整備に努めました。

学習環境の整備・充実を図るため、開かれた学校づくりに取り組むとともに、教職員の資質向上や施設・設備の整備・充実などに努めました。

特別支援教育においては、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育の推進に努めるとともに、その環境整備を進めました。

体育・スポーツ活動の充実や健康教育の推進を通して、健やかな体を育成するとともに、地域と連携しながら学校安全の確保に努めました。

人権教育については、学校の教育活動全体を通じて人権尊重の理念について理解を促し、一人ひとりを大切にする教育を計画的に推進しました。

このうち、平成20年度の「基本方針」で、特に重点的に取り組むこととした3項目につ

いては、次のとおりでした。

確かな学力の育成については、平成19年度に続いて実施された全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、教員の意識改革と指導力の向上、子どもたちの学習意欲の喚起と確かな学力の向上を図るために、「岡山県学力向上アクションプラン」に取り組みました。

しかし、平成21年4月実施の同調査では、8項目のうち1項目の正答率は全国平均を上回ったものの、他の項目は下回るという大変厳しい結果でした。しかしながら、全国平均を下回った7項目のうち6項目で、全国平均との差が平成20年度より縮まっており、県全体の学力向上の取組の成果が少しずつ現われてきている状況です。

調査結果から明らかになった、子どもたちの「情報を読み取り、条件に沿って考えをまとめる力」や、家庭での予習や復習などの学習習慣の定着などの課題を踏まえ、平成21年度も、「学力向上アクションプラン」を中心とした、授業改革協力員の指定や指導主事等の派遣による授業改革のための校内研修の充実や、学力の定着を図る到達度確認テストの実施等に取り組むこととしています。

豊かな心の育成については、いじめ、不登校への対応として、スクールカウンセラーの全公立中学校への配置や教育相談体制の拡充などにより、その防止や早期解決に努めましたが、いじめの認知件数は、平成19年度に比べ減少したものの、依然として高い水準にあります。また、不登校の出現率は、小学校・中学校・高等学校とも、全国に比べ高い状況が続いています。さらに、公立学校における学校内外での暴力行為の発生率も増加傾向にあります。

各学校においては、教職員研修や教育相談体制の強化を図るとともに、教職員が生徒指導や道徳教育の在り方をしっかりと共通理解した上で指導に当たることが重要です。今後は、今までの取組の効果を検証し、各学校での取組の参考となる県としての方針や対策について総合的に検討・協議し、各学校に還元していくことが課題です。

特別支援教育の推進については、近年、特別支援学校及び特別支援学級の在籍者数が急激に増加する中、平成20年度末に策定した、「岡山県特別支援教育推進プラン」に基づき、全県的視野に立った特別支援学校の教育体制や小・中・高等学校における特別支援教育の充実に向けて取り組んでいくことが必要です。

(4) 伝統文化の振興

本県に伝わる貴重な文化遺産の適切な保護・保存を進めるとともに、県立博物館等での文化財の公開や史跡の整備による活用を推進し、県民の文化財への理解と関心を高めるよう努めました。

平成20年度末に整備が完了した史跡津島遺跡については、その重要性などについて、引き続き、様々な機会を通して広報し、周知に努めるとともに、史跡の公開・活用を促進して、文化財を理解し、親しむ機会を充実してまいります。

伝統文化の保存伝承については、様々な機会を通して広報を行っていますが、子どもたちへの一層の周知に努めるとともに、引き続き発表の機会を確保してまいります。

IV 点検・評価に関する有識者からの意見及び教育委員会の考え方

岡山県教育委員会の事務の管理及び執行の状況についての点検・評価について、岡山大学の田中宏二理事・副学長、国立教育政策研究所教育政策・評価研究部の葉養正明部長及び株式会社イマシロの今西通好代表取締役会長に御意見を頂きました。

田中宏二（岡山大学理事・副学長）

【教育委員会について】

・報告書では、事務局が提案する施策等について、教育委員会審議でどのような意見がなされ、それが施策等にどのように反映されたかが明確に分かるように整理されている。その点から教育委員会が適切に機能していると判断できます。例示をあげれば、県行財政改革の進む中で、県主導の生涯学習事業を地域社会に受け継がせていくこと、図書購入予算縮減でも利用者増の知恵を求めるなどの確な指摘と思えます。

【個別の施策・事業について】

・学力向上の推進は重要な目標であり、県独自の授業改革支援事業や読書実践プログラムなど地道な取り組みは、学力調査結果へ直ぐに反映されないにしても、意義深く評価できます。

・教員の資質向上について、様々な意欲的な施策がなされており、特に教員同士が支えあう学校風土づくりをめざす「同僚性形成研修」など先進的な施策が見られます。

・研修等により身についた資質・能力が活かされるには「教師が子どもと向き合う時間の確保」が重要です。教員の勤務負担軽減の調査研究が行われていますが、業務の棚卸し等により、どれだけ子どもに振り向ける時間数が生まれるかなどのデータを示して、実効的な施策につなげて欲しいものです。

・全体的にみて、施策による成果を検証するための指標がかなり示されており、本来的な点検・評価になじむ報告書になってきたと評価できます。目標達成度を適切に示す指標を当初より計画的に設定することが今後も必要かと思えます。

○教育委員会の考え方

①平成20年度に行った教員の勤務負担軽減に関する調査研究事業のまとめを「子どもと向き合う時間の確保のために」と題して、各学校に配付し、勤務の実態や「校務分掌の在り方」等の参考事例を周知しました。そこでは、取組によって生まれる子どもに振り向ける時間数等のデータは示していませんが、今後、この調査研究を継続する中で御指摘の視点も取り入れてまいりたいと考えています。

②適切な目標指標を設定することは、目標達成度を適切に点検・評価する上で、重要なことであると考えています。現在策定中の「岡山県教育振興基本計画（仮称）」において、目標となる指標を設定しており、毎年度、進捗状況を把握し、教育施策の点検・評価に生かしてまいりたいと考えています。

平成21年度「教育委員会事務の点検・評価に関する報告書」等により、岡山県教育委員会の活動状況を見ると、教育行政領域で課題となっている諸事項についてほぼ網羅的、総合的に取り組んでいる。地方教育行政法の一部改正とも関連して侃々諤々の議論が続いてきた法律上の教育委員会の形骸化の問題についても、教育委員会会議に加え、教育委員協議会の開催や学校現場や教育施設の視察、市町村教育委員会、小中学校校長会等との意見交換や懇談会をたびたび開催し、改善努力が認められる。

そのうえで、気付いた諸点を以下に記す。

- ・教育委員会会議は公開で運用していると思われるが、傍聴者の状況がどうかなどについても付記した方が、実態が分かりやすいと思った。
- ・この報告書全体を通じての感想であるが、網羅的な記述に配慮されていて全体像は理解できるが、反面、岡山県なりの特色という点ではアピールが弱い感じがする。
- ・全国の教育委員会事務の点検・評価全般の課題であるが、数値目標のようなものが提示されないことが多いため、目標達成度が理解しにくい。たとえば、教職員の服務関係や高校生をめぐる諸問題などは、どの都道府県でも大きな課題になっているが、そのような重点課題についてはもうちょっと具体的な目標の設定などが工夫できないだろうか。
- ・日本総合研究所の『わが国のソーシャル・キャピタル政策展開に向けて』報告書（平成20年2月）などの分析では、都道府県別ソーシャル・キャピタル・ランキング（2007年）の岡山県の順位は、ボンディング指数（組織内での人々の間の結びつきの強さ）は、全国1位、ブリッジング指数（異なる組織間での人々の間の結びつきの強さ）は、全国3位となっている。住民間の信頼関係、ネットワーク、規範の3点からとらえられるソーシャル・キャピタルの水準はわが国でトップ水準ということであり、これは、生涯学習の振興や家庭・地域社会の教育力の充実などの面での施策にも生かされている。こうした点をアピールするような報告書のつくりかたもあるのではないか。

最後に、『平成21年度 教育行政重点施策』と題する文書は、簡便に行政施策の全体を知る上で便利であり、来年度以降も引き続き出してほしいと思う。

○教育委員会の考え方

- ①本県では、平成20年度から、傍聴者の状況を含め教育委員会会議の概要をホームページ上に公開しているところですが、当報告書においても付記するよう、今後検討してまいりたいと考えています。
- ②昨年度の報告書において、「文科省の施策と岡山県の施策との判別が見えない」との御意見を頂いたことを踏まえ、平成21年度は文科省等の施策については(国)と明記しました。今後は、岡山県の特徴ある取組について、より分かりやすくお示しできるような工夫を検討してまいりたいと考えています。
- ③ねらいに即した数値目標を検討し、達成目標の明確化を図ることは重要なことであると考えており、現在策定中の「岡山県教育振興基本計画（仮称）」においても、目標となる指標を設定しているところです。御意見を踏まえた目標の設定について、今後検討してまいりたいと考えています。
- ④当報告書は、本県の取組を中心に構成していますが、御意見のありました「住民間の信頼関係」等本県のよいところについては、アピールしていきたいと考えています。

今西通好（株式会社イマシロ代表取締役会長（岡山経済同友会））

岡山県教育委員会の報告書や関連の諸資料から読み取れるのは、県の教育行政が平成11年の「おかやま教育ビジョン」に掲げられた基本目標「たくましく心豊かな人づくり」に向けて、生涯学習、家庭・地域社会の教育力、学校教育、伝統文化など多分野にわたる総合的かつきめ細かい一貫した課題追求と施策が展開されていること、また種々の指標が示す通り、年々着実にそれらの成果が挙がっていることであり、基本的に高く評価できる。

その上でいくつかの課題を指摘したい。

- 1 「確かな学力」「豊かな心」の双方にとって家庭・地域社会に本来内在すべき教育力の最重要な源泉の一つは父親であるにも拘わらず、わが国には久しく「父親不在」が放置されたまま。高度成長時代の負の遺産ともいえるべき「会社人間」とそれを支え続ける経済至上主義や効率優先社会からの変革なくして父親の回帰、従って家庭・地域社会の教育力回復は実現困難と思われる。いまや価値観やライフスタイルの変換を伴うこの国民的課題が教育改革の原点との認識に立って全県的政策課題とし、産官学民連携による解決の第一歩を踏み出すときではないか。中長期的にはその先に現状の教育制度そのものの改革の道筋も見えてこよう。
- 2 学校教育はもとより家庭・地域社会においても大人の視点からの政策論議に片寄りがちだが、より多く児童生徒の視座をも取り入れてゆくことが重要ではないか。
- 3 教育委員会の種々の施策について末端の家庭・地域社会、あるいは学校現場にも周知徹底を欠いたり、逆に末端の課題が委員会に十分掌握されていない事例もあるやに思われる。まずは過剰な事務作業に忙殺されて児童生徒と十分向き合えない教員の悩みや委員会の折角の家庭向け広報資料が届いても読みこなしている親が少ない実態などについての検証とさらなる対策が望まれる。父親・母親の「親学」ともいえるべき学習機会も必要ではないか。

○教育委員会の考え方

- ①現在、本県では、社会経済情勢の変化や教育の現状と課題を踏まえ、平成22年度から26年度までの5年間を計画期間とする「岡山県教育振興基本計画（仮称）」の平成21年度中の策定を予定しております。御意見のありました「家庭・地域社会の教育力の回復」はその中でも、大きな課題と考えており、今後は、この計画に基づき、県の関係部局はもとより、市町村、関係団体等とも連携し、ワーク・ライフ・バランス等にも配慮しながら、積極的に推進してまいりたいと考えています。
- ②県が教育行政を推進する上で、子どもを含め、学校現場に視点を置くことは重要なことであると考えています。そのため、視察や懇談会等を通じて関係者の御意見等を積極的に伺っているところですが、今後は、直接「子どもたちの生の声」を聞く機会を設けることも検討してまいりたいと考えています。
- ③本県では、教員の勤務負担の軽減を大きな課題と捉え、平成20年度から、教員の勤務負担軽減と子どもと向き合う時間の確保に向けた調査研究を行っており、その成果を施策に生かしてまいりたいと考えています。
- ④県では、平成9年度から、教育通信「こころのわ」を県下の保護者の方々に配付しています。御意見のありました実態の検証につきましては、平成21年度、アンケート調査を実施したところであり、その結果を読者の拡大、内容の充実等に生かしてまいりたいと考えています。
- ⑤保護者にとって必要な事柄を学ぶ機会を提供することは必要な取組であると考えています。平成20年度は、民間団体等と協働し、「親の学び協働推進事業」を実施し、大学内でNPOが中心となって子育て広場活動を展開するとともに、その場を活用して、大学の専門性を生かした学びの提供を行うなど、行政・大学・NPOが連携し、保護者のニーズに即した学びのプログラム開発に取り組みました。今後も、こうした多様な主体との協働を進め、より一層親の学びの機会を提供してまいりたいと考えています。

意見を頂いた学識経験者

職 名	氏 名
岡山大学理事・副学長	田 中 宏 二
国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部部長	葉 養 正 明
株式会社イマシロ 代表取締役会長	今 西 通 好

岡山県教育委員会委員（平成21年3月31日現在）

職 名	氏 名
委員長	中 島 義 雄
委員長職務代理者	高 橋 香 代
委員	大 原 謙一郎
委員	橋 本 信 子
委員	松 田 欣 也
委員兼教育長	門 野 八洲雄

清 田 寂 順 委員 平成21年3月24日退任

松 田 欣 也 委員 平成21年3月25日就任

(参考資料)

1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 条例、規則等の制定・改廃

平成20年度に制定改廃された教育関係の条例、規則等は次のとおりである。

(1) 改正された条例、規則等

【条例】

日付	題名
20. 9. 26	義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置に関する条例の一部改正 岡山県立特別支援学校設置条例の一部改正
20. 12. 22	岡山県職員等定数条例の一部改正 岡山県教育委員会の権限に属する事務の処理の特例に関する条例の一部改正 岡山県職員特殊勤務手当支給条例の一部改正 岡山県職員給与条例の一部改正 岡山県県費負担教職員の給与等に関する条例の一部改正 義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置に関する条例の一部改正 岡山県教育委員会教育長の給与等に関する条例の一部改正
21. 3. 17	岡山県青年の家条例の一部改正 岡山県教育関係手数料徴収条例の一部改正

【規則等】

日付	題名
20. 6. 27	学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例施行規則の一部改正
20. 9. 5	学校教育法施行規則実施細則の一部改正
20. 11. 28	岡山県教育委員会事務局の組織及び事務分掌規則の一部改正 岡山県教育委員会の権限に属する事務の一部委任等に関する規則の一部改正 岡山県立学校の管理運営に関する規則の一部改正
20. 12. 22	現業職員の給与に関する規程の一部改正 現業職員の給与に関する規程の一部改正 岡山県教育委員会職員の職の設置に関する規則の一部改正 岡山県立学校の管理運営に関する規則の一部改正
21. 3. 27	岡山県教育委員会職員の職の設置に関する規則の一部改正 岡山県教育委員会事務局の組織及び事務分掌規則の一部改正 岡山県教育委員会公印の寸法及び管理に関する規程の一部改正 教育職員の免許状に関する規則の一部改正 岡山県教育委員会の権限に属する事務の一部委任等に関する規則の一部改正 岡山県生涯学習センターの組織及び事務分掌規則の一部改正 岡山県教育委員会の権限に属する事務の処理の特例に関する条例に基づき市町村が処理する事務の範囲を定める規則の一部改正
21. 3. 31	岡山県立学校の管理運営に関する規則の一部改正

(2) 制定、廃止された条例、規則等

【規則等】

日付	題名
20. 11. 28	岡山県教育委員会の所管に属する民法第三十四条の法人の設立及び監督に関する規則の廃止
20. 12. 26	教育職員の免許状の有効期間の更新等に関する規則の制定

